SONY

4-128-127-**02** (1)

データ
プロジェクター

取扱説明書

VPL-DX10/DX11/DX15

機種の中には、国・地域によって販売されていないものがあります。
ソニーの相談窓口に確認してください。

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の
取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**
製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

5年に1度は、内部の点検を、ソニーの相談窓口にご相談ください（有料）。

故障したら使用を中止する

すぐにお買い上げ店またはソニーの相談窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたりキャビネットを破損したときは

↓

❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続コードを抜く。
❸ お買い上げ店またはソニーの相談窓口に連絡する。

警告表示の意味

この説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告
この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意
この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



目次

はじめに

画像を映す

便利な使いかた

メニューで行う調整と設定

お手入れ

その他

お客様へ

⚠警告

下記の注意事項を守らないと、**火災**や**感電**により、**死亡**や**大けが**につながることがあります。

火災　感電

電源コードを傷つけない

禁止

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。
- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口に交換をご相談ください。

付属の電源コードや接続ケーブルを使う

注意

付属の電源コードや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

容量の低い電源延長コードを使用しない

禁止

容量の低い延長コードを使うとショートしたり、火災や感電の原因となったりすることがあります。

電源プラグおよびコネクターは突きあたるまで差し込む

指示

まっすぐに突きあたるまで差し込まないと、火災や感電の原因となります。

安全アースを接続する

アース線を接続せよ

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

アースキャップは幼児の手の届かないところへ保管する

注意

お子様が誤って飲むと、窒息死する恐れがあります。
万一誤って飲み込まれた場合は、ただちに医者に相談してください。
特に小さなお子様にはご注意ください。

長時間の外出、旅行のときは、電源プラグを抜く

プラグをコンセントから抜く

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

プラグをコンセントから抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

天井への取り付け、移動は絶対に自分でやらない

禁止

天井への取り付けは必ずお買い上げ店またはテクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（有料）。天井の強度不足、取り付け方法が不充分のときは落下する危険があります。
必ずソニー推奨のプロジェクターサスペンションサポートをご使用ください。特約店の方は取り付けを安全に行うために、必ず本機およびプロジェクターサスペンションサポートの取付説明書の注意事項をお読みください。

床／卓上置き、または天吊り金具を使った天吊り以外の設置をしない

禁止

それ以外の設置をすると火災や大けがの原因となることがあります。

熱感知器や煙感知器のそばに設置しない

禁止

熱感知器や煙感知器のそばに設置すると、排気の熱などにより、感知器が誤動作するなど、思わぬ事故の原因となることがあります。

排気口、吸気口をふさがない

禁止

排気口、吸気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。また、手を近づけるとやけどをする場合があります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 壁や周辺の物から30cm以上離して設置、使用する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 布などで包まない。
- 立てて使用しない。

レンズをのぞかない

禁止

投影中にプロジェクターのレンズをのぞくと光が目に入り、悪影響を与えることがあります。

内部に水や異物を入れない

禁止

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

内部を開けない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、キャビネットや裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の調整や設定、点検、修理はお買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

指定された部品を使用する

指示

指定以外の部品を使用すると、火災や感電および故障や事故の原因となります。ランプ、電池、フィルターは指定されたものを使用してください。

心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離して使用する（VPL-DX15のみ）

禁止

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。

⚠注意

下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

電源コード / 接続ケーブルに足をひっかけない

注意

電源コードや接続ケーブルに足をひっかけると、プロジェクターが倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

落雷のおそれがあるときは、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

不安定な場所に設置しない

禁止

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置･取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

水のある場所に置かない

水ぬれ禁止

水が入ったり、濡れたり、風呂場などで使うと、火災や感電の原因となります。雨天や降雪中の窓際でのご使用や、海岸、水辺でのご使用は特にご注意ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、熱器具の近くに置かない

禁止

火災や感電の原因となることがあります。

本機を運搬するときは落下に注意する

注意

本機を持ち運ぶときは落下にご注意ください。また、付属のキャリングケースをご使用いただく場合も落下にご注意ください。落下するとプロジェクターが壊れたり、ケガの原因となります。

本機を立てて置かない

禁止

保管や、一時的に立てておくと倒れて思わぬ事故の原因になり危険です。

排気口周辺には触れない

高温

排気口周辺はランプの熱で温度が高くなっています。手などを触れると火傷の原因となります。

投影中にレンズのすぐ前で光を遮らない

禁止

遮光した物に熱による変形などの影響を与えることがあります。

スプレー缶などの発火物や燃えやすいものを排気口やレンズの前に置かない

禁止

火災の原因となることがあります。

製品の上にものを載せない

禁止

製品の上にものを載せると、故障や事故の原因となります。

プロジェクターの上に水が入ったものを置かない

禁止

内部に水が入ると火災や感電の原因となります。

定期的にエアーフィルターをクリーニングする

注意

約 500 時間使用したら、必ずエアーフィルターのクリーニングをしてください。
クリーニングを怠るとフィルターにごみがたまり、内部に熱がこもって火災の原因となることがあります。

エアーフィルターを外したまま使用しない

注意

内部にゴミがたまり、故障の原因となります。

運搬するときは USB メモリーを外して移動する（VPL-DX15 のみ）

指示

本機を運搬するときは必ず USB メモリーを取り外して移動してください。取り付けたままで移動すると、USB メモリーや本機に損害を与える原因となることがあります。

アジャスター調整時に指を挟まない

手を挟まれないよう注意

アジャスターの調整は慎重に行ってください。そうしないと、アジャスターに指を挟み、けがの原因となることがあります。

充分に冷えた状態でキャリングケースに収納する

注意

本機の電源を切った直後にキャリングケースなどに本機を収納すると、熱がこもるためキャビネットの温度が上がる場合があります。充分に冷えた状態でキャリングケースに収納してください。
使用直後にキャリングケースに収納し、すぐに本機を取り出す時は排気口近くを掴まないようにご注意ください。やけどなどの原因となる場合があります。

本製品を使用中に他の機器の電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない（VPL-DX15 のみ）

禁止

ワイヤレス機能の使用を中止してください。
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない（VPL-DX15 のみ）

禁止

ワイヤレス機能の使用を中止してください。
電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

電池についての安全上のご注意

ここでは、本機のリモートコマンダーで使用可能な（コイン型）リチウム電池についての注意事項を記載しています。

⚠警告

- 乳幼児の手の届かないところに置く。
- 電池は充電しない。
- 火の中に入れたり、加熱・分解・改造をしない。
- 電池の（＋）と（－）を正しく入れる。
- 電池の液が目に入ったときは、失明の原因となるので、こすらずにすぐに水道水などのきれいな水で充分に洗った後、医師の治療を受ける。
- 電池の液をなめた場合には、すぐにうがいをして医師に相談する。
- ショートの原因となるので、金属製のネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管したりしない。
- 電池に液もれや異臭があるときは、すぐに火気から遠ざける。
- 電池に直接はんだ付けをしない。
- 電池を保管する場合および破棄する場合は、テープなどで端子（金属部分）を絶縁する。
- 皮膚に障害を起こすおそれがあるので、テープなどで貼り付けない。

⚠注意

- 電池を落下させたり、強い衝撃を与えたり、変形させたりしない。
- 直射日光の強いところや炎天下の車内などの高温・多湿の場所で使用、放置、保管しない。
- 電池を水で濡らさない。
- ショートさせないように機器に取り付ける。

ランプについての安全上のご注意

プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。高圧水銀ランプには、つぎのような特性があります。

- 衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などにより大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態となって寿命が尽きたりすることがある。
- 個体差や使用条件によって、寿命に大きなバラツキがある。指定の時間内であっても破裂、または不点灯状態になることがある。
- 交換時期を越えると、破裂の可能性が高くなる。「ランプを交換してください」というメッセージが表示されたときには、ランプが正常に点灯している場合でも速やかに新しいランプと交換してください。

⚠警告
火災　感電
下記の注意を守らないと、火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

ランプ交換はランプが充分に冷えてから行う

高温

電源を切った直後はランプが高温になっており、さわるとやけどの原因となることがあります。ランプ交換の際は、**電源を切ってから1時間以上**たって、充分にランプが冷えてから行ってください。

ランプ収納部に金属類や燃えやすい異物を入れない

火災
感電

ランプを取りはずした後のランプの収納部に金属類や燃えやすい物などの異物を入れないでください。火災や感電の原因となります。また、やけどの危険がありますので手を入れないでください。

⚠注意
下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

ランプが破裂したときはすぐに交換を依頼する

注意

ランプが破裂した際には、プロジェクター内部やランプハウス内にガラス片が飛散している可能性があります。**ソニーの相談窓口にランプの交換と内部の点検を依頼**してください。また、排気口よりガスや粉じんが出たりすることがあります。ガスには水銀が含まれていますので、万が一吸い込んだり、目に入ったりした場合は、けがの原因となることがあります。

排気口をのぞかない

禁止

光が目に入り、悪影響を与えることがあります。
万一ランプが破裂した場合、ガラス片が飛散する可能性があり、けがの原因となることがあります。

本機または使用済みランプを廃棄する場合

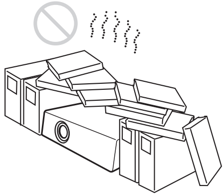
本機のランプの中には水銀が含まれています。
廃棄の際は、一般の廃棄物とは一緒にせず、地方自治体の条例または規則に従ってください。

設置・使用時のご注意

設置に適さない場所

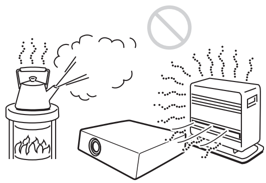
次のような場所には設置しないでください。本機の**故障や破損の原因**となります。

風通しが悪い場所



- 吸気口および排気口は、内部の温度上昇を防ぐためのものです。風通しの悪い場所を避け、通風口をふさがないように設置してください。
- 吸気口や排気口がふさがって、内部の温度が上昇すると、温度センサーが働き、「セット内部温度が高いです。１分後にランプオフします。」という警告メッセージが表示され、１分後に自動的に電源が切れます。
- 本機の周囲から 30cm 以内には物を置かないようにしてください。
- 吸気口には小さな紙などが吸い込まれやすいのでご注意ください。

温度や湿度が高い場所



温度や湿度が非常に高い場所や温度が著しく低い場所での使用は避けてください。

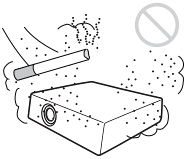
空調の冷暖気が直接当たる場所

結露や異常温度上昇により、故障の原因となることがあります。

熱感知器や煙感知器のそば

感知器が誤動作する原因となることがあります。

ほこりが多い場所、たばこなどの煙が入る場所



ほこりの多い場所、たばこなどの煙が入る場所での使用は避けてください。この様な場所で使用するとエアーフィルターがつまりやすくなったり、故障や破損の原因となります。また、エアーフィルターの汚れは内部の温度が上昇する原因になるので定期的に掃除してください。

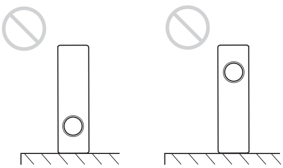
標高の高い場所で使用する場合

海抜 1500m 以上でのご使用に際しては、初期設定メニューの高地モードを「入」にしてください。そのままご使用になりますと、部品の信頼性などに影響を与える恐れがあります。

使用に適さない状態

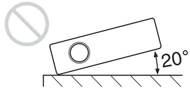
次のような状態では使用しないでください。

本機を立てて使用しない



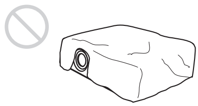
プロジェクターを立ててお使いになることは避けてください。故障の原因となります。

本機を左右に傾けない



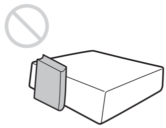
プロジェクターを 20 度以上左右に傾けてお使いになることは避けてください。色むらやランプの寿命を著しく損ねる原因となることがあります。

吸排気口を覆わない



吸排気口をふさぐような覆いやカバーをしたり、毛足の長いじゅうたんなどの上では使用しないでください。吸排気口がふさがれると、内部の温度が上昇します。

レンズの前に遮蔽物を置かない



投影中にレンズのすぐ前で光を遮らないでください。遮光した物に熱による変形など影響を与える可能性があります。投影を一時的に中断するときには、消画機能（39 ページ）をお使いください。

使用上のご注意

液晶プロジェクターについて

液晶プロジェクターは非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現われたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。また、すじ状の色むらや明るさのむらが見える場合もあります。**これらは、液晶プロジェクターの構造によるもので、故障ではありません。**
また、複数台の液晶プロジェクターを並べてスクリーンへ投射する場合、プロジェクターごとに色合いのバランスが異なるため、同一機種の組み合わせであってもそれぞれ色合いの違いが目立つ場合があります。

スクリーンについて

表面に凹凸のあるスクリーンを使用すると、本機とスクリーン間の距離やズーム倍率によって、まれに画面上に縞模様が現れる場合があります。これは本機の故障ではありません。

結露について

プロジェクターの設置してある**室内の急激な温度変化は結露を引き起こし、故障の原因**となりますので冷暖房にご注意ください。
結露とは、寒いところから急に暖かい場所へ持ち込んだとき、本体の内部に水滴がつくことです。**結露が起きたときは、電源を入れたまま本機をそのまま約 2 時間放置**しておいてください。

ファンの音について

プロジェクターの内部には温度上昇を防ぐためにファンが取り付けられており、電源を入れると多少音を生じます。これらは、液晶プロジェクターの構造によるもので、故障ではありません。しかし、異常音が発生した場合にはお買い上げ店にご相談ください。

部屋の照明について

直射日光や室内灯などで直接スクリーンを照らさないでください。美しく見やすい画像にするために、以下の点を参考にしてください。

- 集光形のダウンライトにする。
- 蛍光灯のような散光照明にはメッシュを使用する。
- 太陽の差し込む窓はカーテンやブラインドでさえぎる。
- 光を反射する床や壁はカーペットや壁紙でおおう。

お手入れのしかた

お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

エアーフィルターのお手入れについて

- 必ず定期的にエアーフィルターのクリーニングをしてください。
- クリーニング方法については、“エアーフィルターをクリーニングする”（64 ページ）をご参照ください。

レンズ面のお手入れについて

レンズの表面は反射を抑えるため、特殊な表面処理を施してあります。誤ったお手入れをした場合、性能を損なうことがありますので、以下のことをお守りください。

- レンズに手を触れたり、固いもので傷をつけたりしないようにご注意ください。
- レンズ表面についた汚れは、クリーニングクロスやメガネ拭きなどの柔らかい布で軽く拭いてください。
- 汚れがひどいときは、クリーニングクロスやメガネ拭きなどの柔らかい布に水を少し含ませて、拭きとってください。
- アルコールやベンジン、シンナー、酸性洗浄液、アルカリ性洗浄液、研磨剤入り洗浄剤、化学ぞうきんなどはレンズ表面を傷めますので、絶対に使用しないでください。

外装のお手入れについて

- 乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布で拭きとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤をかけると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。
- 布にゴミが付着したまま強く拭いた場合、傷が付くことがあります。
- ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本機は「高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品」です。

警告

設置の際には、容易にアクセスできる固定配線内に専用遮断装置を設けるか、使用中に、容易に抜

き差しできる、機器に近いコンセントに電源プラグを接続してください。
万一、異常が起きた際には、専用遮断装置を切るか、電源プラグを抜いてください。

重要

機器の名称と電気定格は、底面に表示されています。

注意

アースの接続は、必ず電源プラグを電源コンセントへ接続する前に行ってください。
アースの接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。

注意

指定以外の電池に交換すると、破裂する危険があります。
必ず指定の電池に交換してください。
使用済みの電池は、国または地域の法令に従って処理してください。

お客様へ

各国 / 地域の声明文は、その国 / 地域で販売された機器に適用されます。

VPL-DX15 のみ

本機器には技術基準適合証明を受けた特定無線設備が組み込まれています。

日本国内で無線 LAN を使用する場合の注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認して下さい。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）して下さい。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときには、付属の取扱説明書に記載のソニーの相談窓口にお問い合わせ下さい。

2.4DS4/OF4

この機器が、2.4 GHz 周波数帯（2412 から 2462 MHz）を使用する直接拡散（DS）方式／直交周波数分割多重変調（OF）の無線装置で、干渉距離が約 40 m であることを意味します。

5GHz 帯の無線 LAN を使用する場合の注意

5GHz 帯の無線 LAN は、電波法の規制により、屋外および日本国外では使用できません。

付属の説明書について

本機は、以下の説明書を付属しています。

説明書

安全のために（別冊）

本機を取り扱う際に事故を防ぐための重要な注意事項を記載しています。

簡易説明書（別冊）

本機を接続してから映すまでの、簡単な操作方法を説明しています。

取扱説明書（本書、CD-ROM に収録）

この説明書には本機の操作方法や接続のしかたが記載されています。

取扱説明書（ネットワーク／ USB ファイルビューアー編）（VPL-DX15 のみ）（CD-ROM に収録）

ネットワークの機能および USB ファイルビューアーの使用方法が記載されています。

ご注意

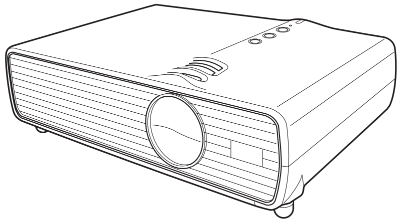
CD-ROM に収録されている取扱説明書などをご覧いただくには、コンピューターにソフトウェア Adobe Acrobat Reader 5.0 以上がインストールされている必要があります。

この取扱説明書では、VPL-DX10、VPL-DX11 と VPL-DX15 を一緒に説明しています。説明中の画面は主に VPL-DX15 を使用しておりますので、お買い上げいただきました機種によっては表示されない項目があります。あらかじめご了承ください。

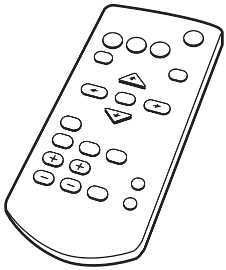
同梱品

本製品には本体（プロジェクター）と以下の付属品が同梱されています。お使いになる前にご確認ください。

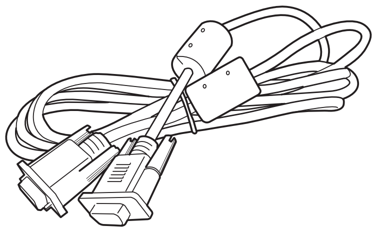
本体（プロジェクター）（1）



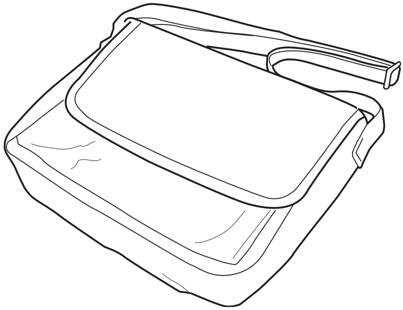
リモートコマンダー RM-PJ6（1）



HD D-sub 15 ピンケーブル（2m）（1）
（1-791-992-51/Sony）



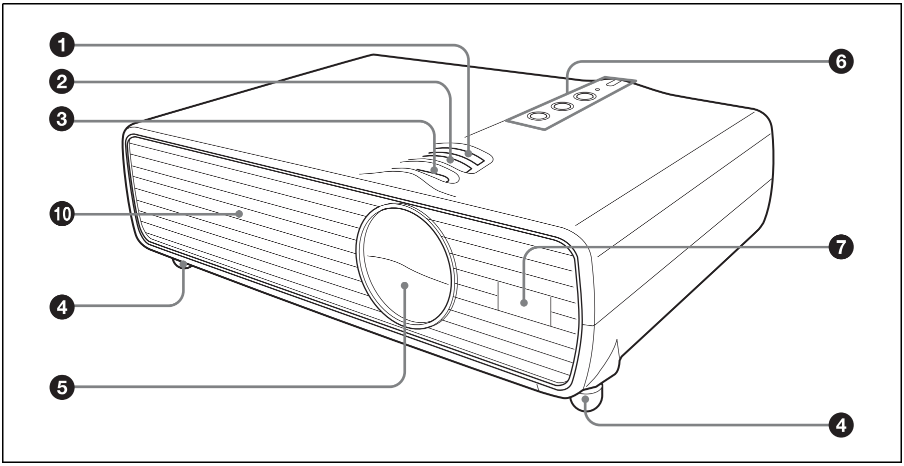
キャリングケース（1）



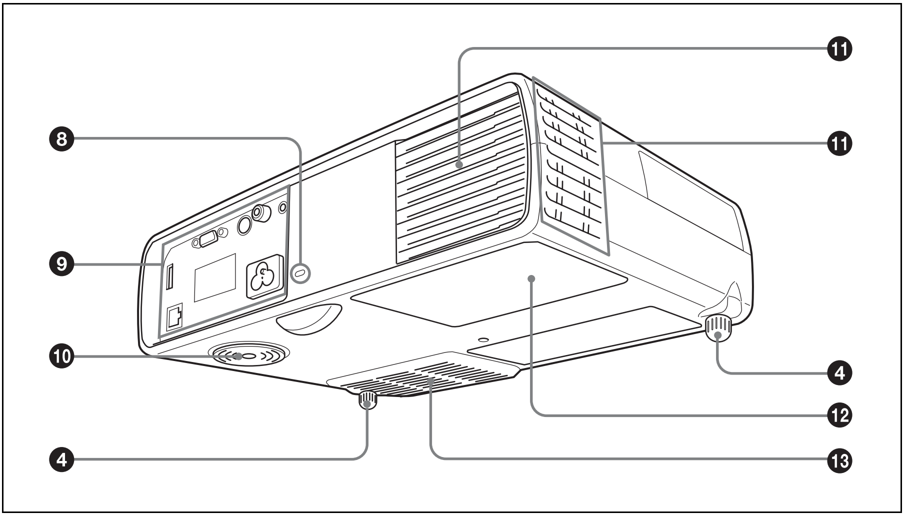
リチウム電池 CR2025（1）（リモートコマンダーに装着されています。）
電源コード（1）
取扱説明書（CD-ROM）（1）
簡易説明書（1）
安全のために（1）
保証書（1）
セキュリティーラベル（1）
ワイヤレスラベル（1）（VPL-DX15 のみ）

各部の名前と働き(本体)

天面／前面／側面



後面／側面／底面



❶ ズームリング

画像の大きさ（ズーム）を調整します。

❷ フォーカスリング

画像のフォーカスを調整します。

❸ レンズシャッターレバー

レンズシャッターレバーを手動で動かすことにより、映像を一時的に遮断することができます。この場合、映像信号は投射されていません。

❹ アジャスター（前足）

アジャスターを使って、投影された画像の傾きを調整します。

◆詳しくは、「アジャスターの使いかた」（27 ページ）をご覧ください。

❺ レンズ／レンズシャッター

❻ コントロールパネル

◆詳しくは、「コントロールパネル」（18 ページ）をご覧ください。

❼ リモコン受光部

❽ 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブル（Kensington 社製）などを取り付けることができます。

◆詳しくは、「セキュリティ機能を活用する」（35 ページ）をご覧ください。

❾ コネクターパネル

◆詳しくは、「コネクターパネル」（19 ページ）をご覧ください。

❿ 吸気口

⓫ 排気口

⓬ ランプカバー

⓭ 吸気口／エアーフィルターカバー

排気口／吸気口について

⚠警告

・排気･吸気口をふさがないでください。**排気･吸気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因**となることがあります。

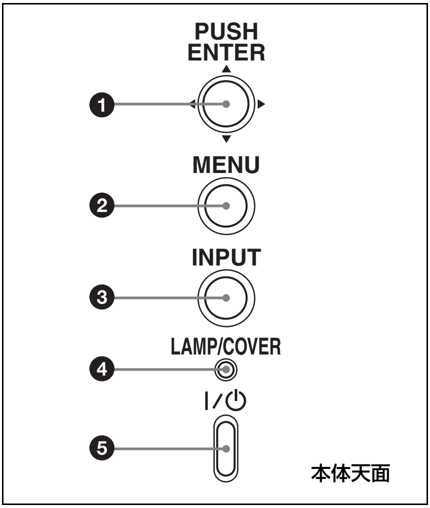
・排気口に手を触れたり、近くに物を置かないでください。**排気口及びその周辺は高温になるので、やけどや火災の原因**となることがあります。

ご注意

本機の性能を保持するために、**約 500 時間ごとに必ずエアーフィルターのクリーニングを行ってください。**

◆詳しくは、「エアーフィルターをクリーニングする」（64 ページ）をご覧ください。

コントロールパネル



❶ PUSH ENTER（確定）／▲/▼/◀/▶（矢印）キー

メニューの設定項目を確定するとき、メニューに表示されるカーソルを動かすとき、メニュー項目の数値を変えるときなどに使います。

❷ MENU（メニュー）キー

メニューを画面に表示したいときに押します。もう1度押すとメニューは消えます。

❸ INPUT（入力選択）キー

入力信号を選びます。押すたびに信号が切り換わります。

❹ LAMP（ランプ）／COVER（カバー）インジケーター

以下の状態のとき、オレンジ色に点滅します。

2回点滅のくり返し：ランプカバーがはずれているとき。

3回点滅のくり返し：ランプの交換時期がきたとき、またはランプの温度が高いとき。

◆詳しくは、69ページをご覧ください。

❺ I/⏻（オン／スタンバイ）キー

本体がスタンバイ状態のときに押すと本体の電源が入り、操作可能状態になるまでの間キー自体が緑色に点滅し、その後点灯します。
電源を切るときは、画面の表示に従って、I/⏻キーを2度押すか、約2秒間押したままにしてください。
またI/⏻キーの点灯や点滅は、次のような状態を示します。

赤色に点灯：電源コードをコンセントに差し込んだとき。この状態をスタンバイと呼び、I/⏻キーで電源を入れることができます。

赤色に点滅：セット内部が高温、または故障したとき。

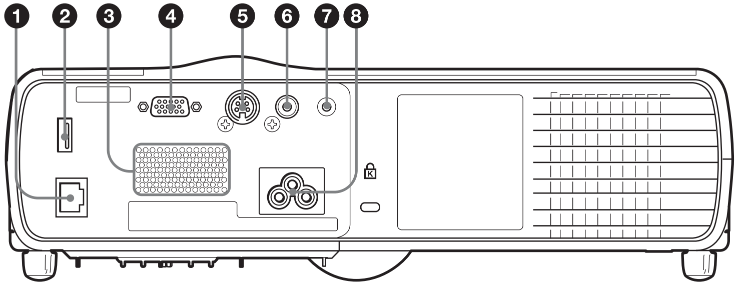
緑色に点灯：電源が入っているとき、操作可能な状態のとき。

緑色に点滅：本体に電源を入れて操作可能になるまでの間、およびI/⏻キーで電源を切った後の約90秒間（冷却時）。

オレンジ色に点灯：パワーセービング中です。

コネクターパネル

背面



❶ （ネットワーク）端子（RJ-45）（VPL-DX15 のみ）

本機のネットワーク機能を使うとき、LAN ケーブルを接続します。

ご注意

安全のために、周辺機器を接続する際は、過大電圧を持つ可能性があるコネクターをこの端子に接続しないでください。

❷ （USB）端子（A タイプ）（VPL-DX15 のみ）

USB ファイルビューアーを使用するときに USB メモリーを接続します。

ご注意

USB ケーブルを使って、本機の USB 端子とコンピューターを接続することはできません。

❸ スピーカー

AUDIO 端子に入力された音声を出力します。

❹ INPUT A（入力 A）端子（アナログ RGB 端子、HD D-sub 15 ピン、凹）

接続する機器に応じて、コンピューター信号、ビデオ GBR 信号、コンポーネント信号、DTV 信号を入力することができます。
接続する機器の出力端子に付属のケーブルまたは別売りのケーブルで接続します。

◆詳しくは、「コンピューターを接続する」（24 ページ）、「ビデオ機器を接続する」（25 ページ）をご覧ください。

❺ S VIDEO （S 映像）端子（ミニ DIN4 ピン）：

ビデオ機器などの S 映像出力端子と接続します。

❻ VIDEO（映像）端子（ピンジャック）

ビデオ機器などの映像出力端子と接続します。

❼ AUDIO（音声）端子（ステレオミニジャック）：

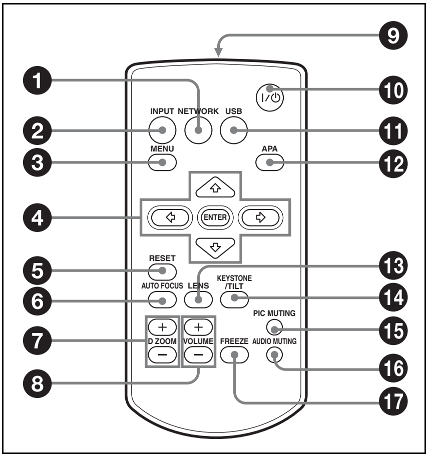
ビデオ機器などの音声出力端子と接続します。

❽ AC IN（電源コンセント）

付属の電源コードを接続します。

リモートコマンダーについて

本体のコントロールパネルと同じ名前のキーは本体と同じ働きをします。



❶ NETWORK（ネットワーク）キー

キーを 1 回押すだけでネットワーク機能を起動します。

◆詳しくは、付属の CD-ROM の「取扱説明書（ネットワーク／ USB ファイルビューアー編）」をご覧ください。

ご注意

電源ケーブルを接続した直後は起動中のため、キー操作を受け付けないことがあります。

❷ INPUT（入力選択）キー

❸ MENU（メニュー）キー

❹ ENTER（確定）／ ▲/▼/◀/▶（矢印）キー

❺ RESET（リセット）キー

メニューをリセットしたり、調整した項目の調整値を初期設定状態に戻したりするときに使用します。また、デジタルズーム時にも使用します（38 ページ）。

❻ AUTO FOCUS（オートフォーカス）キー

本機では使用しません。

❼ D ZOOM（デジタルズーム）＋/－キー

デジタルズーム機能を使用するときに押します。

◆詳しくは、「画面の一部を拡大する（デジタルズーム）」（38 ページ）をご覧ください。

❽ VOLUME（音量）＋／－キー

スピーカーからの音量を調節します。

❾ リモートコマンダー発光部

❿ I/⏻（オン / スタンバイ）キー

⓫ USB キー

キーを 1 回押すだけで USB ファイルビューアー機能を起動します。

◆詳しくは、付属の CD-ROM の「取扱説明書（ネットワーク／ USB ファイルビューアー編）」をご覧ください。

ご注意

電源ケーブルを接続した直後は起動中のため、キー操作を受け付けないことがあります。

⓬ APA（Auto Pixel Alignment）キー

APA を実行します。

◆詳しくは、機能設定メニューの「画質を調整する（スマート APA）」（40 ページ）をご覧ください。

⓭ LENS（レンズ）キー

本機では使用しません。

⓮ KEYSTONE（台形補正）／ TILT（傾き）キー

台形になった画像を手動で調整するときに押します。

◆詳しくは、「台形になった画像を自動で補正する（オート V キーストーン補正）」（33 ページ）をご覧ください。

本機では傾き調整機能は使用しません。

⓯ PIC MUTING（ピクチャーミューティング）キー

⓰ AUDIO MUTING（オーディオミューティング）キー

⓱ FREEZE（フリーズ）キー

投影している画像を一時的に静止させます。

◆詳しくは「投影している画面を静止させる（フリーズ）」（38 ページ）をご覧ください。

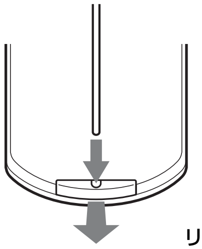
リモートコマンダーを使用する前に

電池部の透明フィルムを引き抜いてください。

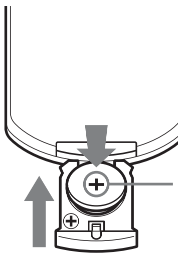
リチウム電池の入れかた

1 リチウム電池入れを引き出す。

図のように細い棒を差し込みながら、電池カバーを手前に引いてください。



2 リチウム電池をはめ込む。



3 リチウム電池入れを差し込む。

リチウム電池についてのご注意

・リモートコマンダーには、ボタン型リチウム電池（CR2025）が使用されています。CR2025以外の電池を使用しないでください。
・ボタン型電池を誤って飲み込むことのないよう、リモートコマンダーおよび電池は幼児の手の届かないところに置いてください。
・万一電池を飲み込んだ場合には、直ちに医師と相談してください。

リモートコマンダーのご注意

・リモートコマンダーと本体のリモコン受光部の間に障害物があると、操作できないことがありますので、本機の前面にあるリモコン受光部に向けてリモートコマンダーを操作してください。
・リモートコマンダーで操作できる範囲は限られています。本体に近いほど、操作が可能な角度が広がります。

電池についての安全上のご注意

⚠警告

本機に付属の「安全のために」に記載されている「電池についての安全上のご注意」をよくお読みください。

リモートコマンダーが正常に働かない場合は、「リモートコマンダーに関する項目」（68ページ）をご覧ください。

設置する

本機は、床や卓上に置いて使用する「床置き」設置と、天井に専用の金具を使って固定使用する「天吊り」設置の2通りの設置が可能です。
詳しくは「設置と設置寸法」（78ページ）をご覧ください。

接続する

接続するときは

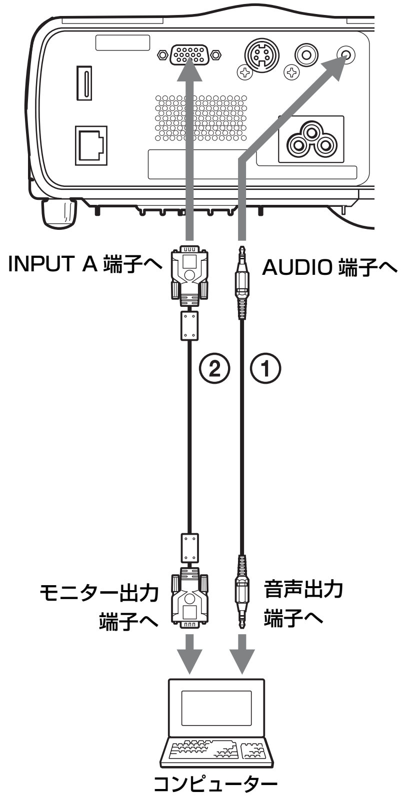
・各機器の電源を切った状態で接続してください。
・接続ケーブルは、それぞれの端子の形状に合った正しいものを選んでください。
・プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は画像の乱れの原因になります。抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。

◆VPL-DX15の（ネットワーク）端子や（USB）端子に接続する場合は、CD-ROM内の「取扱説明書（ネットワーク／USBファイルビューアー編）」をご覧ください。

コンピューターを接続する

ここではコンピューターを本機に接続する方法を説明します。
接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

コンピューターを接続する場合



① ステレオオーディオ接続ケーブル（別売）（抵抗なしのものをお使いください。）
② HD D-sub 15 ピンケーブル（付属）

ご注意

・本機は、VGA、SVGA、XGA、WXGA、WXGA+、SXGA、SXGA+ 信号に対応していますが、接続するコンピューターの外部モニターの出力信号を XGA に設定することをおすすめします。
・ノート型のコンピューターなどで、出力信号をコンピューターの液晶ディスプレイと外部モニターの両方に出力するように設定すると、外部モニターに正しく映像が出ない場合があります。この場合は、外部モニターにのみ信号が出力されるように、コンピューターを設定してください。

◆詳しくは、お使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。

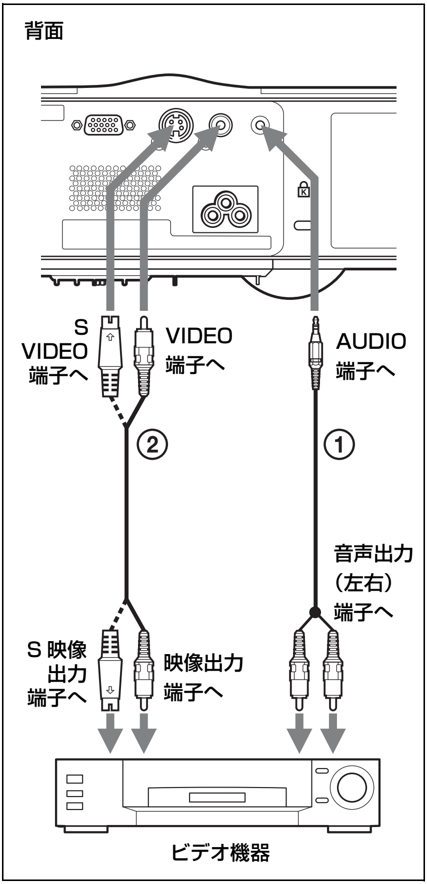
ご注意

Macintosh で出力端子のピン配列が 2 列タイプのものを接続する場合は、市販のアダプターをご使用ください。

ビデオ機器を接続する

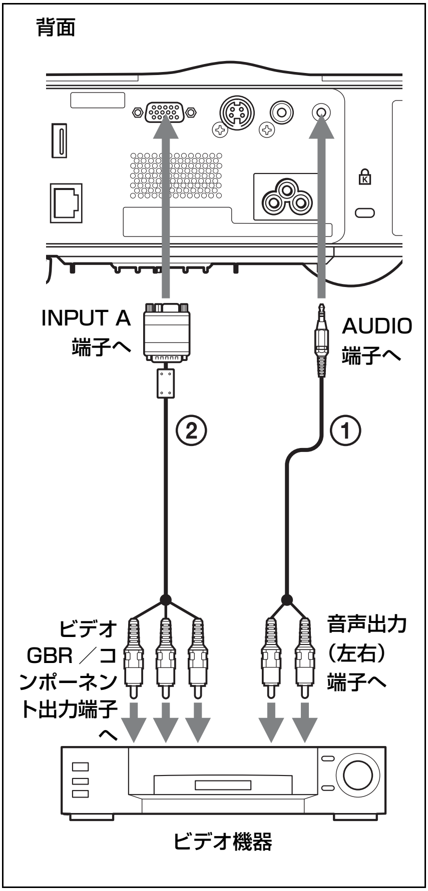
ここではビデオ機器を本機に接続する方法を説明します。
接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

映像出力端子に接続する場合



① ステレオオーディオ接続ケーブル（別売り）（抵抗なしのものをお使いください）
② ビデオ接続ケーブル（別売り）または S ビデオ接続ケーブル（別売り）

ビデオ GBR ／コンポーネントの出力端子に接続する場合



① ステレオオーディオ接続ケーブル（別売り）（抵抗なしのものをお使いください。）
② シグナルケーブル（別売り）HD D-sub 15 ピン（凸）←→ 3 ×ピンプラグ

ご注意

・入力する信号に応じて、スクリーン設定メニューの「アスペクト」を設定してください。
・ビデオ GBR の出力端子に接続する場合は初期設定メニューの「入力 A 信号種別」をビデオ GBR に、コンポーネントの出力端子に接続する場合はコンポー

ネントに切り換えてください。

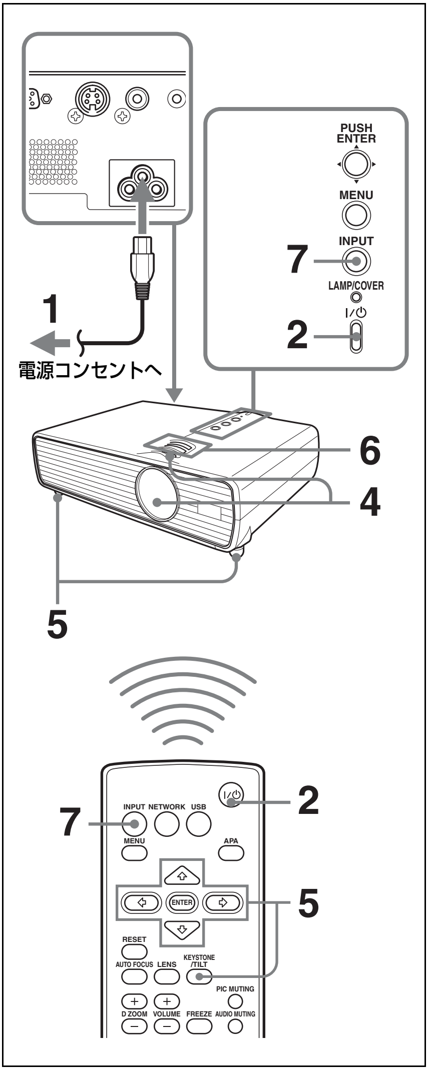
ネットワークに接続する（VPL-DX15 のみ）

ネットワークへの接続のしかたは、付属の CD-ROM に収録されている「取扱説明書（ネットワーク／ USB ファイルビューアー編）」をご覧ください。

USB メモリーを接続する（VPL-DX15 のみ）

USB メモリーの接続のしかたは、付属の CD-ROM に収録されている「取扱説明書（ネットワーク／ USB ファイルビューアー編）」をご覧ください。

スクリーンに画像を映す



1 電源コードをコンセントに差し込み、各機器の接続をする。

I/⏻ キーが赤色に点灯し、スタンバイ状態になります。

2 I/⏻ キーを押して、電源を入れる。

3 接続した機器の電源を入れる。

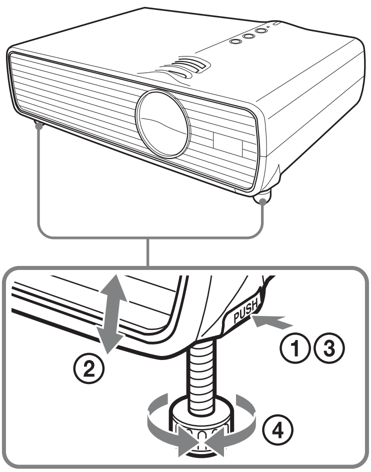
4 レンズシャッターレバーを動かし、レンズシャッターを開く。

5 画像の上下の位置を調整する。

アジャスターを使って、プロジェクターの傾きを調整します。

アジャスターの使いかた

①アジャスター調整ボタンを押す。
②プロジェクターを持ち上げて角度を調整する。
③アジャスター調整ボタンをはなす。
④微調整が必要な場合は、アジャスターを左右に回して調整する。



ご注意

・アジャスターで高さを調整すると、V キーストーン補正が自動的に働きます。オートキーストーン補正を実行しない場合は、設置設定メニューの V キーストーンを「手動」に設定します。(57 ページ参照)
・V キーストーンをオートに設定すると、V キーストーン補正は自動的に調整されますが、室温やスクリーンの傾きなどにより適正な補正が得られない場合があります。この場合は、手動で調整を行います。リモートコマンダーの KEYSTONE キーを押して、画面に「V キーストーン」を表示させ、▲/▼/◀/▶ キーで値を調整してください。調整された値は電源を切るまで有効です。
・アジャスターを調整するときは、手をはさまないようにしてください。
・アジャスターを出した状態で、本機を上から強く押さえないでください。故障の原因になります。

6 画像の大きさとフォーカスを調整する。

ズームリングで画像の大きさ、フォーカスリングでフォーカスを調整します。

7 INPUT キーを押して投影する映像を選ぶ。

キーを押すたびに、映像が以下のように切り換わります。

入力信号表示



VPL-DX10/DX11

入力 A → ビデオ → S ビデオ →(入力 A に戻る)

VPL-DX15

入力 A → ネットワーク → USB → ビデオ → S ビデオ →(入力 A に戻る)

入力信号表示について

選択されている入力チャンネルを表示します。信号が入力されていないときは x 表示になります。初期設定メニューの「画面表示」で非表示にすることもできます。

投影する映像	画面の表示
コンピューターなど（INPUT（入力）A 端子につないだ機器の映像）	入力 A
ビデオ機器（VIDEO（映像）端子につないだ機器の映像）	ビデオ
ビデオ機器（S VIDEO 端子につないだ機器の映像）	S ビデオ
コンピューター（ネットワーク機能を使用するために LAN に接続した機器の映像）	ネットワーク
USB メモリー（USB 端子につないだ USB メモリーの映像）	USB

選択された入力がコンピューター信号の場合、自動で APA（オートピクセルアライメント）が働き、接続される機器の画像をくっきりと調整します。

◆詳しくは、「画質を調整する（スマート APA）」（40 ページ）をご覧ください。

ネットワークまたは USB を選択した場合（VPL-DX15 のみ）

ネットワークを選択すると、USB メモリーとの接続遮断の確認画面が表示されます。

また、USB を選択すると、ネットワーク機器との接続遮断の確認画面が表示されます。

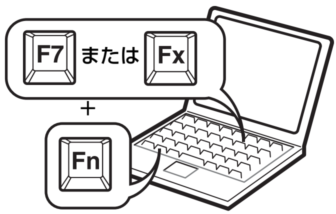
ネットワークまたは USB メモリーを接続していない場合や、これらの機器を終了してもよい場合は、ENTER キーを押してください。

ご注意

オート入力サーチが「入」に設定されていると、接続されている機器の信号を自動的にサーチし、入力信号のある入力を表示します。VPL-DX15 は、入力信号がない場合「ネットワーク」が選ばれた状態になります。詳しくは、機能設定メニューの「オート入力サーチ」（55 ページ）をご覧ください。

8 接続した機器の映像信号の出力先を切り換える。

ノートタイプやモニター一体型のコンピューターを接続したときには、キー（LCD/VGA、 / など）や設定によって映像信号の出力先を切り換える必要のあるものがあります。



ご注意

コンピューターの種類によって、切り換えのキーが異なります。

電源を切る

1 I/⏻ キーを押す。

「パワーオフしますか？もう一度 I/⏻ キーを押してください。」というメッセージが表示されます。

ご注意

確認のメッセージは I/⏻ キー以外のキーを押すか、5 秒間何もキーを押さないと消えます。

2 I/⏻ キーを再び押す。

I/⏻ キーが緑色に点滅し、本機内部の温度を下げるために、ファンが回り続けます。

3 ファンが止まり、I/⏻ キーが赤く点灯するのを確認してから、電源コードを抜く。（オフ＆ゴー使用時を除く）

本機は、プレゼンテーションが終了したら、ファンが止まるのを待たずに電源を抜くことができます（オフ＆ゴー）

◆詳しくは「スムーズにプレゼンテーションを終える（オフ & ゴー）」(34 ページ）をご覧ください。

画面のメッセージを確認できない場合は

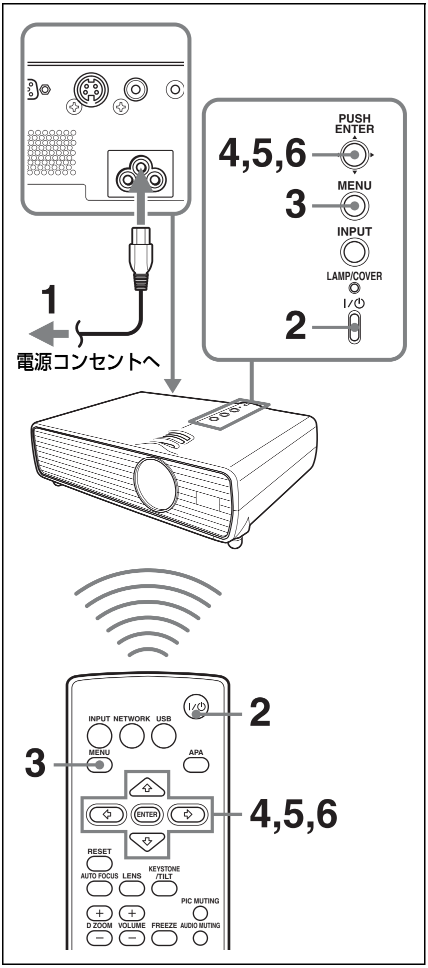
状況により画面のメッセージを確認できない場合は、手順 **1**、**2** の操作の代わりに I/⏻ キーを約 2 秒押したままにしても電源を切ることができます。

すぐに再投影したい場合は

I/⏻ キーが緑色に点滅中でも、もう一度電源を入れるとランプを再点灯させることができます。ただし、条件によってはランプが点灯するまで時間がかかることがあります。

メニュー表示言語を切り換える

メニュー画面やメッセージの表示言語を 17 言語の中から選ぶことができます。お買い上げ時は「English」（英語）に設定されています。表示言語を変更したいときは、以下の手順で変更します。



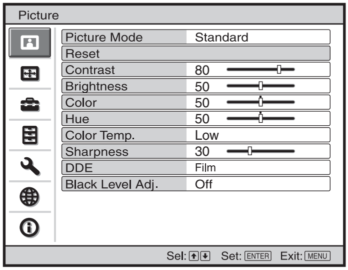
1 **電源コードをコンセントに差し込む。**

2 **I/⏻ キーを押して、電源を入れる。**

I/⏻ キーが緑色に点滅した後、点灯します。

3 **MENU キーを押す。**

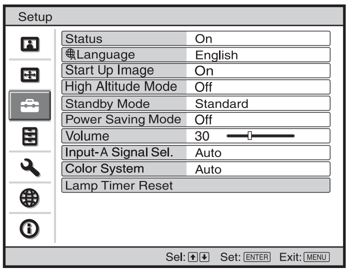
メニュー画面が表示されます。
現在選択されているメニューが黄色いボタンで表示されます。



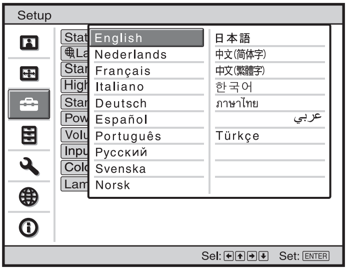
（VPL-DX15）

4 **▲ または ▼ キーを押して Setup（初期設定）メニューを選び、▶ キーまたは ENTER キーを押す。**

選んだメニューの設定項目が表示されます。



5 ▲または▼キーを押して「Language」（表示言語）を選び、▶キーまたは ENTER キーを押す。



6 ▲/▼/◀/▶ キーを押して表示させたい言語を選び、ENTER キーを押す。

画面表示が、選んだ言語に切り換わります。

メニュー画面を消すには

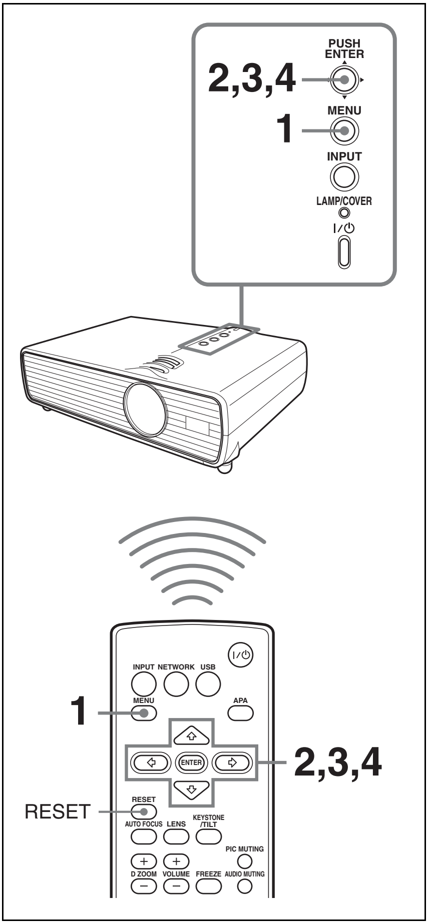
MENU キーを押す。

約 1 分間操作をしない場合もメニューは自動的に消えます。

設定した調整値を工場出荷時の値に戻す

設定した調整値をお買い上げ時（工場出荷時）の値に戻すことができます。

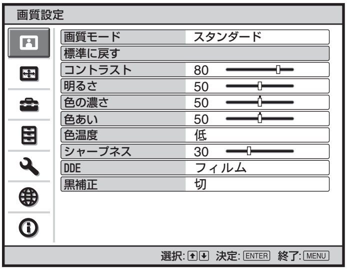
メニュー項目から設定する



1 MENU キーを押す。

メニュー画面が表示されます。

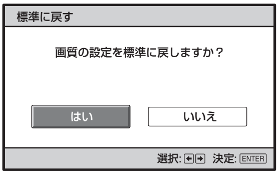
2 ▲/▼ キーを押して画質設定メニューを選択し、▶ キーまたは ENTER キーを押す。



3 画質設定メニューから▲/▼キーで「標準に戻す」を選択し、ENTER キーを押す。

◆詳しくは 47 ページをご覧ください。

4 画面表示されたら ◀/▶ キーで「はい」を選択し、ENTER キーを押す。



以下の項目がまとめてお買い上げ時の値に戻ります。

画質設定メニューの「コントラスト」、「明るさ」、「色の濃さ」、「色あい」、「色温度」、「シャープネス」、「DDE」、「黒補正」、「ガンマモード」

調整中の設定値をお買い上げ時の設定に戻す

リモートコマンダーの RESET キーを押す。

項目を調整中（画面に表示中）に RESET キーを押すと、お買い上げ時の値に戻ります。

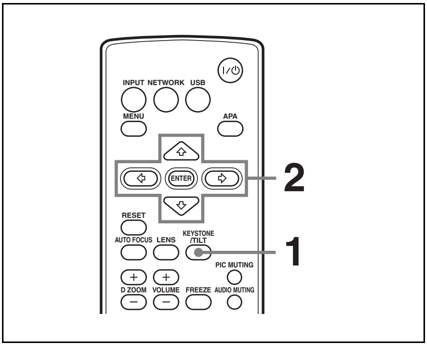
台形になった画像を自動で補正する(オートV キーストーン補正)

本機は、投影角度によって画像が台形に投影された場合、自動で補正することができます。

自動で調整された画像をさらに調整する

ご注意

手動で調整した後にもう一度自動で設定したい場合は、V キーストーン設定を一度「手動」に切り替えてから「オート」に戻してください。



1 KEYSTONE/TILT キーを押す。

台形補正メニューが表示されます。

2 ▲/▼/◀/▶ キーを使って調整する。

画面の上辺より下辺が長い場合（⏢）

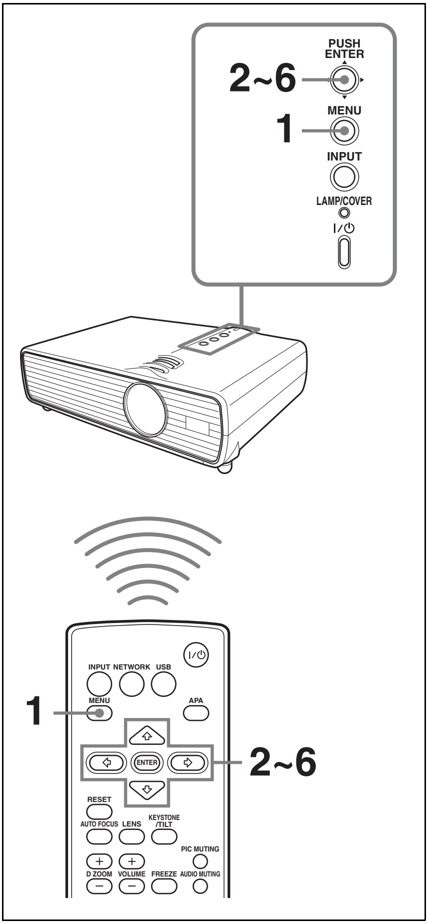
マイナス方向に数値を設定します。

画面の下辺より上辺が長い場合（⏢）

プラス方向に数値を設定します。

操作のあと5秒たつと、自動的にメニューが消えます。

メニュー項目から設定する



1 MENU キーを押す。

MENU 画面が表示されます。

2 ▲/▼キーを押して設置設定メニューを選択し、▶キーまたはENTERキーを押す。



3 ▲/▼キーを押して、設置設定メニューから「Vキーストーン」を選択し、ENTERキーを押す。

4 ▲/▼キーで、自動的に調整したい場合は「オート」を、手動で調整したいときは「手動」を選択し、ENTERキーを押す。

5 「手動」を選択した場合は、▲/▼/◀/▶キーを使って調整する。

画面の上辺より下辺が長い場合（　）
マイナス方向に数値を設定します。

画面の下辺より上辺が長い場合（　）
プラス方向に数値を設定します。

6 ENTERキーを押して決定する。

ご注意

・Vキーストーン補正の自動調整は、室温やスクリーンの傾きなどにより適正な補正が得られない場合があります。
・Vキーストーン補正は電子的な補正のため、画像が劣化する場合があります。

スムーズにプレゼンテーションを終える（オフ & ゴー）

会議室などをすぐに移動するような場合には、電源を切った後すぐに電源コードを抜くことができます。

ご注意

・キャリングケースなどに収納する際は、「電源を切る」（29ページ）の手順に従って電源を切り、本機が充分に冷えた状態で収納してください。
・パワーオフしてすぐにパワーオンすると、ランプが点灯しにくい場合があります。

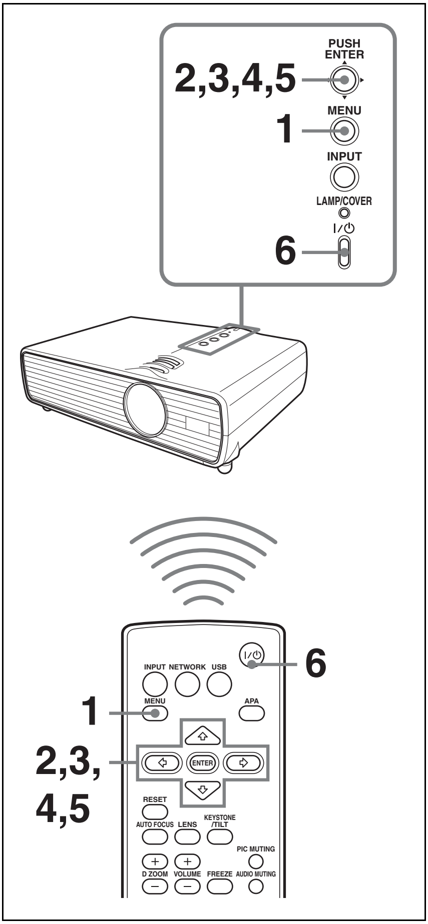
セキュリティ機能を活用する

セキュリティロック

本機は、セキュリティロック機能を搭載しています。電源を入れると事前に設定してあるパスワードの入力が要求され、正しいパスワードを入力しないと映像を投影することができません。

ご注意

・セキュリティロックは、電源コードを抜き差しした後で電源を入れた時にのみパスワードの入力が求められます。
・パスワードを忘れてしまったり、パスワード管理者が不在の場合、本機を使用することができなくなります。この機能をご使用の場合はあらかじめ以上のことをご承知のうえお使いください。



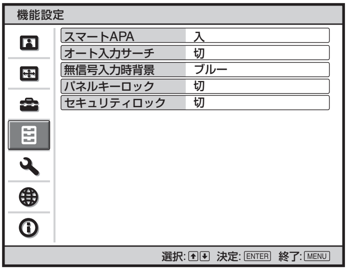
セキュリティロックをかけるには

1 **MENU キーを押す。**

メニュー画面が表示されます。

2 **▲/▼ キーを押して機能設定メニューを選択し、▶ キーまたは ENTER キーを押す。**

便利な使いかた



3 **機能設定メニューから▲/▼キーで「セキュリティロック」の「入」を選択し、ENTER キーを押す。**

4 **パスワードを入力する。**

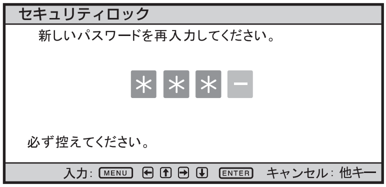
MENU、▲/▼/◀/▶、ENTER の 6 つのキーを使用して 4 桁のパスワードを入力してください。
（出荷時には“ENTER, ENTER, ENTER, ENTER”が設定されていますので、初回使用時には ENTER を 4 回入力してください。）



次に新しいパスワードの入力画面が表示されます。
（現在のパスワードと同じで良い場合でも、ここで入力してください。）
パスワードを入力画面に入れる。



5 **確認のためもう一度パスワードを入力する。**



「セキュリティロックが有効になりました」というメッセージが表示されたら完了です。

「パスワードが違います！」というメッセージがメニュー画面に表示された場合は、手順 **1** からやり直してください。

6 **設定完了後に本機の電源を切り、電源コードを抜き設定を有効にする。**

セキュリティロックが有効となり、次に電源を入れたときにパスワードの入力画面が表示されます。

セキュリティ認証

パスワードの入力画面が表示されたら、設定されているパスワードを入力してください。パスワードの入力に 3 回続けて失敗すると、これ以降の操作ができません。その場合、I/⏻ キーを押し、電源を切ってください。

セキュリティロックを解除するには

1 **MENU キーを押して機能設定メニューの「セキュリティロック」を「切」にする。**

2 パスワードを入力する。

設定してあるパスワードを入力してください。

ご注意

パスワードを忘れてしまったためソニーの相談窓口へお問い合わせをするときは、シリアル番号とお客様の確認が必要になります（国／地域によって異なります）。お客様の確認ができるとパスワードをご案内致します。

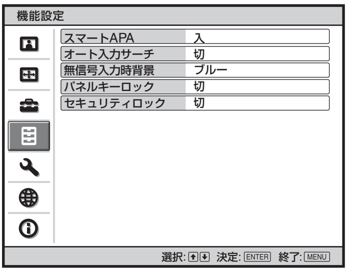
パネルキーロック

天面のコントロールパネルキーをすべてロックし、リモートコマンダーのみで操作するように制御できます。

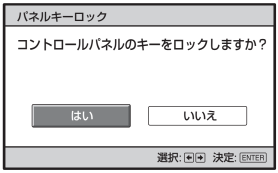
1 MENU キーを押す。

MENU 画面が表示されます。

2 ▲/▼ キーを押して機能設定メニューを選択し、▶ キーまたは ENTER キーを押す。



3 ▲/▼ キーを押し、機能設定メニューから「パネルキーロック」を選択し、ENTER キーを押す。



4 ◀ キーで、「はい」を選択する。

パネルキーロックが設定されました。
「はい」に設定時、本体がスタンバイ状態でコントロールパネルのI/⏻キーを約 10 秒押すと電源が入り、電源が入った状態で押すと、スタンバイ状態になります。

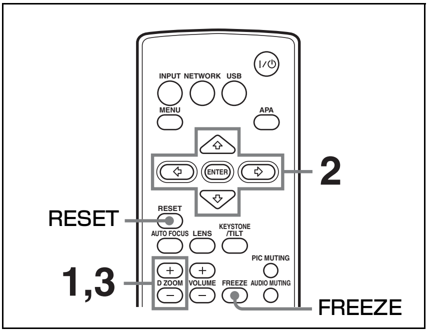
本体側でパネルキーロックを解除するには

電源が入った状態で MENU キーを約 10 秒押すとロックが解除され、設定が「切」になります。

盗難防止用ロック

本機の背面にある盗難防止用ロックには、市販の盗難防止用ケーブル（Kensington 社製）などを取り付けることができます。
詳しくは、Kensington 社のホームページをご覧ください。
Kensington Web ページアドレス：
http://www.kensington.com/

投影中の便利な機能を活用する

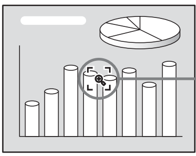


画面の一部を拡大する（デジタルズーム）

画面上の希望の位置を拡大できます。この機能はコンピューターからの信号とネットワーク／USB（VPL-DX15のみ）を入力しているときに働きます。ビデオ信号を入力しているときは働きません。

1 通常の画面を映し、リモートコマンダーのD ZOOM＋キーを押す。

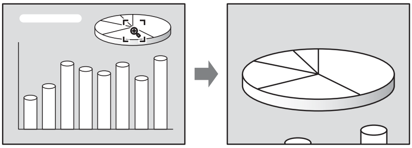
画面中央にデジタルズームのアイコンが表示されます。



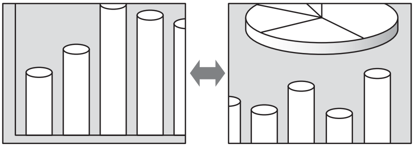
2 ▲/▼/◀/▶ キーを使って、拡大したい位置にアイコンを移動する。

3 もう一度D ZOOM＋キーを押す。

アイコンのある位置を中心に画像が拡大され、拡大率が数秒間画面に表示されます。＋キーを押すごとに拡大率が上がります（最大4倍）。



また、この状態で ▲/▼/◀/▶ キーを押すと、拡大されたまま画像の位置が移動します。



拡大した画像を元の大きさに戻すには

D ZOOM －キーを押します。一度で元の大きさに戻すには、リモートコマンダーのRESETキーを押します。

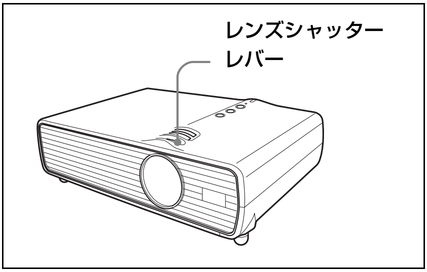
投影している画面を静止させる（フリーズ）

リモートコマンダーのFREEZEキーを押すと、投影している画面を静止させて表示することができます。キーが押されると、画面に「フリーズ」と表示されます。この機能はコンピューターからの信号とネットワーク／USB（VPL-DX15のみ）を入力しているときに働きます。
元の画面に戻すには、FREEZEキーをもう一度押します。

映像を一時的に消す

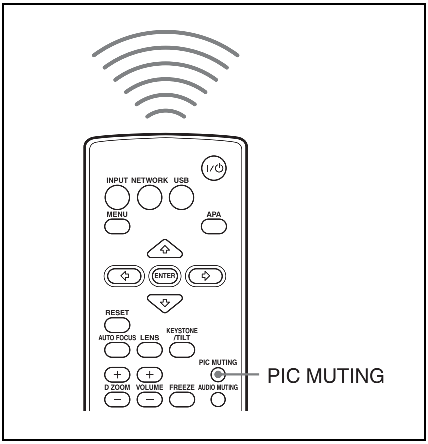
映像の消画方法は、レンズ外側のシャッター機構の開閉により画像を遮断するレンズシャッターと、映像信号をミューティングするピクチャーミュートの2通りがあります。

レンズシャッター（床置き使用時におすすめ）



本体の上面にあるレンズシャッターレバーでレンズシャッターを閉じることにより、投影を一時的に遮断することができます。
レンズシャッターが閉じられているとき、プロジェクター内部では映像が黒表示となっています。
レンズシャッターが閉じられたまま約2時間経過すると、スタンバイ状態になります。

ピクチャーミュート（天吊り使用時におすすめ）

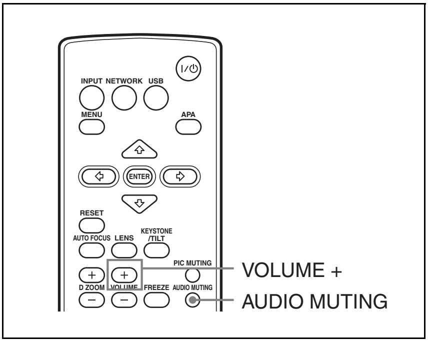


リモートコマンダーのPIC MUTINGキーを押すと、投影されている画像が消画されます。

便利な使いかた

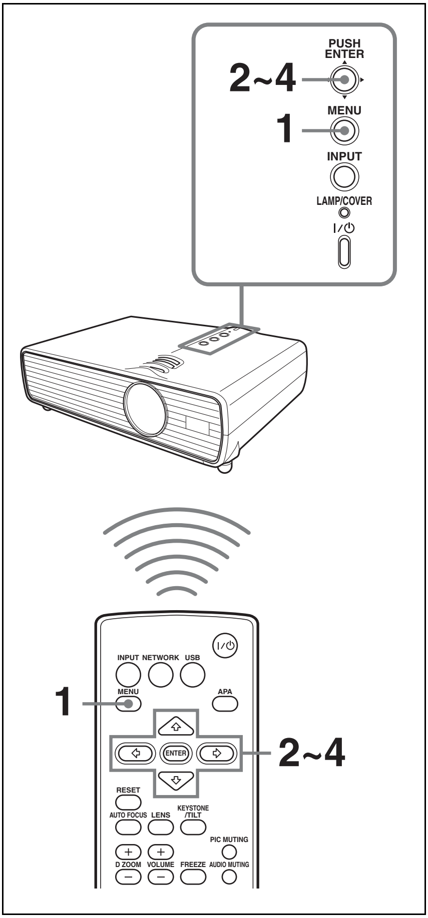
音声を一時的に消す（オーディオミュート）

リモートコマンダーの AUDIO MUTING キーを押すとスピーカーから出力される音声を一時的に消すことができます。
解除するには、もう一度 AUDIO MUTING キー押すか、VOLUME ＋キーを押して音量を上げてください。



画質を調整する（スマート APA）

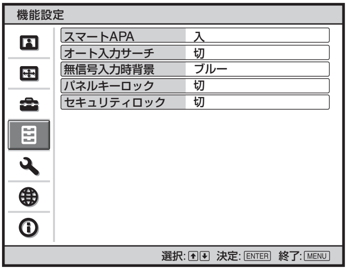
APA （Auto Pixel Alignment）は、コンピューター信号入力時に、画像をくっきり見えるように自動調整する機能です。スクリーン設定メニューの「フェーズ」、「ピッチ」、「シフト」の 3 つの項目を自動で調整します。機能設定メニューの「スマート APA」を「入」に設定すると、信号入力時に毎回実行します。



1 MENUキーを押す。

メニュー画面が表示されます。

2 ▲/▼キーを押して機能設定メニューを選択し、▶キーまたはENTERキーを押す。



3 ▲/▼キーを押し、機能設定メニューから「スマートAPA」を選択し、▶キーまたはENTERキーを押す。

4 ▲/▼キーで、「入」または「切」を選択し、ENTERキーを押す。

入： コンピューター信号が入力されると自動的にAPAの機能が働き画像がくっきり見えるように自動調整が始まります。「入」に設定されているときでも、リモートコマンダーのAPAキーを押して調整することができます。

切： リモートコマンダーのAPAキーを押したときのみ調整が始まります。

ご注意

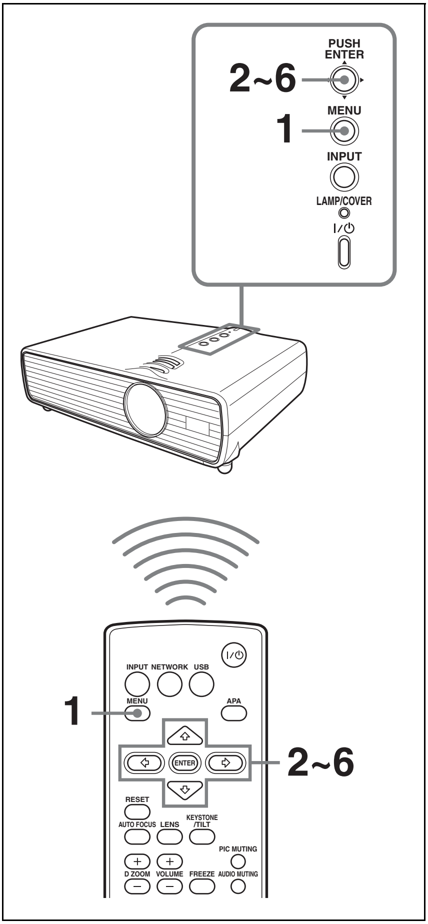
- スマートAPAは、コンピューター信号入力時にのみ働きます。
- APAキーは、スクリーンいっぱいに画像が映っているときに押してください。投影している画像の周辺領域に黒の部分が多く含まれていると、正しくAPAが働かず、画像の一部が表示されないことがあります。
- 調整中にもう1度APAキーを押すと、調整が取り消され、元の状態に戻ります。
- 信号によっては、正しく調整されないことがあります。
- 画質を手動で調整するときは、スクリーン設定メニューの「フェーズ」、「ピッチ」、「シフト」の調整をしてください。

画質モードを設定する

投影する映像に合わせて画質モードを設定することができます。
また、画質モードごとに画質設定項目の設定値が記憶されます。

ご注意

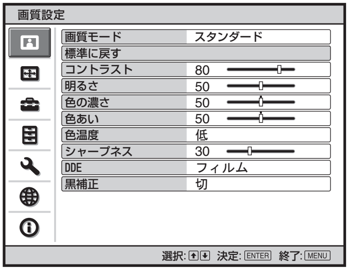
入力信号の種類によって調整・設定できる項目が限られます。



1 MENU キーを押す。

メニュー画面が表示されます。

2 ▲/▼ キーを押して画質設定メニューを選択し、▶ キーまたは ENTER キーを押す。



3 ▲/▼ キーを押し、画質設定メニューから「画質モード」を選択し、▶ キーまたは ENTER キーを押す。

4 ▲/▼ キーで、投影する映像に合わせて「画質モード」を選択し、ENTER キーを押す。

ダイナミック：明暗のはっきりしたメリハリのある画質になります。

スタンダード：なめらかな階調の自然な画質になります。

プレゼンテーション：コンピューター信号入力時とネットワーク／USB（VPL-DX15 のみ）の場合に、プレゼンテーションに適した明るい画質になります。（コンピューター信号入力時とネットワーク／USB（VPL-DX15 のみ）の場合のみ）

5 画質設定メニューの設定項目を好みに合わせて設定する。

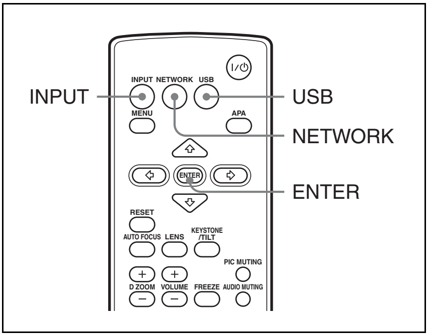
選択している画質モードごとに調整した設定値が記憶されます。

6 ENTER キーを押して決定する。

選択した画質モードとそのモードの画質設定値が記憶されます。

ネットワーク機能や USB ファイルビューアーをワンプッシュで起動する(VPL-DX15 のみ)

ネットワーク機能や USB ファイルビューアー機能を使用したいときは、リモートコマンダーの NETWORK キーまたは USB キー押すだけで、簡単に起動することができます。



リモートコマンダーの NETWORK キーを押すと

ネットワーク機能が起動します。

リモートコマンダーの USB キーを押すと

USB ファイルビューアーが起動します。

ネットワーク機能を利用する(VPL-DX15のみ)

本機が搭載しているネットワーク機能をご利用いただけます。

◆詳しくはCD-ROMに収録されている「取扱説明書(ネットワーク/USBファイルビューアー編)」をご覧ください。

USBメモリー内のファイルを直接投影する(VPL-DX15のみ)

⭠(USB)端子に接続されたUSBメモリー内のファイルを、プロジェクターの投影画面上に直接表示することができます。

◆詳しくはCD-ROMに収録されている「取扱説明書(ネットワーク/USBファイルビューアー編)」をご覧ください。

メニューの操作方法

本機では、入力信号の設定、初期設定の変更など、各種調整や設定をメニュー画面で行います。選んだ調整／設定項目によって、ポップアップメニューで表示されるもの、メニュー画面を消して設定メニューや調整メニューで表示されるもの、次の階層に表示されるものがあります。項目名の後ろに矢印（▶）が付いた項目を選ぶと、次の階層に設定できる項目が表示されます。

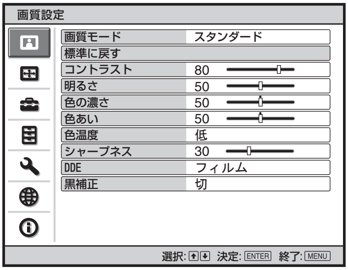
◆表示言語を切り換えるには、「メニュー表示言語を切り換える」（30 ページ）をご覧ください。

この取扱説明書では、VPL-DX10、VPL-DX11、VPL-DX15 を一緒に説明しています。説明中の画面は主にVPL-DX15 を使用しておりますので、お買い上げいただきました機種によっては表示されない項目があります。あらかじめご了承ください。

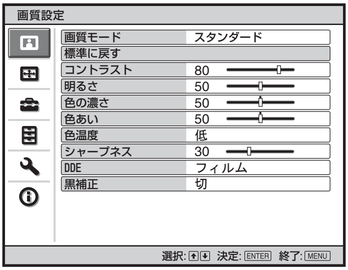
1 MENU キーを押す。

メニュー画面が表示されます。

VPL-DX15

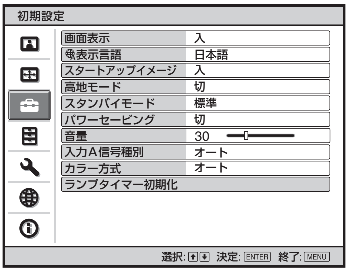


VPL-DX10/DX11



2 ▲または▼キーを押してメニュー項目を選び、▶キーまたはENTER キーを押す。

調整／設定できる項目が表示され、現在選ばれている項目が黄色で表示されます。



3 ▲または▼キーを押して設定したい項目を選び、▶キーまたはENTERキーを押す。

設定できる項目が、ポップアップメニュー、設定メニュー、調整メニューまたは次の階層に表示されます。

ポップアップメニュー

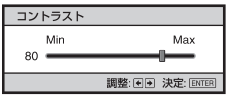
設定できる項目



設定メニュー

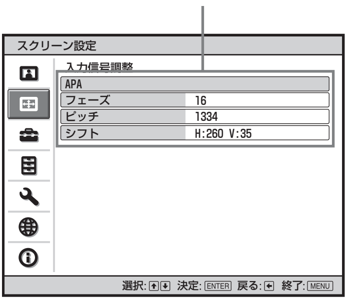


調整メニュー



次の階層に表示された画面

設定できる項目



4 設定項目の調整や設定をする。

数値を変更する項目の場合：

数値を大きくするときは、▲または▶キーを押す。

数値を小さくするときは、▼または◀キーを押す。

ENTERキーを押すと設定が確定し、元の画面に戻ります。

設定を変更する項目を選ぶ場合：

▲または▼キーを押して設定を選ぶ。

ENTERキーを押すと元の画面に戻ります。ただし設定によっては◀キーでも元の画面に戻ります。

メニュー画面を消す

MENUキーを押す。

約1分間操作をしない場合もメニューは自動的に消えます。

調整できない項目について

入力する信号の種類によって、調整／設定できる項目が限られます。調整／設定できない項目はメニューに表示されません。

◆詳しくは、60ページをご覧ください。

設定値の記憶について

設定値はENTERキーを押すと自動的に本体に記憶されます。

入力信号がない場合

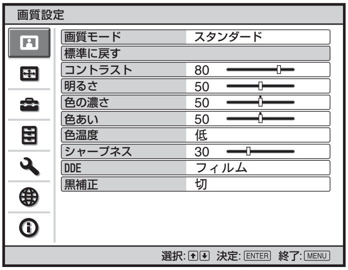
入力信号がない場合は、「この項目は調整できません。」というメッセージが表示されます。

画質設定メニュー

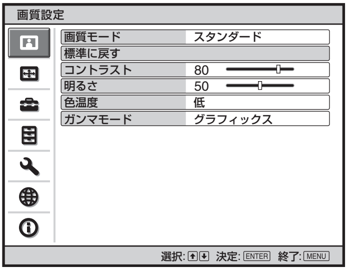
画質を調整するメニューです。
入力信号の種類によって調整・設定できる項目が限られます。

◆詳しくは、「入力信号と調整／設定項目」（60 ページ）をご覧ください。

ビデオ信号を入力しているとき



コンピューター信号を入力しているとき



設定項目	機能	初期設定値
画質モード	画質モードを選びます。 画質モードごとに画質設定項目の設定値が記憶されます。 ・**ダイナミック：**明暗のはっきりしたメリハリのある画質になります。 ・**スタンダード：**なめらかな階調の自然な画質になります。 ・**プレゼンテーション：**コンピューター信号入力時とネットワーク／ USB（VPL-DX15 のみ）の場合に、プレゼンテーションに適した明るい画質になります。	入力信号による
標準に戻す	選ばれている画質モードの項目の設定値をお買い上げ時の値に戻します。 ◆詳しくは、「設定した調整値を工場出荷時の値に戻す」（31 ページ）をご覧ください。	–
コントラスト	映像のコントラストを調整します。 設定値が大きくなるとコントラストが強くなり、小さくなると弱くなります。	80
明るさ	映像の明るさ（輝度）を調整します。 設定値が大きくなると明るくなり、小さくなると暗くなります。	50

設定項目	機能	初期設定値
色の濃さ	色の濃さを表す彩度を調整します。 設定値が大きくなると濃くなり、小さくなると薄くなります。	50
色あい	色あいを調整します。 設定値が大きくなると緑がかり、小さくなると赤みがかります。	50
色温度	色温度を調整します。 ・**高**：白い部分が青みがかった冷たい色調になります。 ・**低**：白い部分が赤みがかった暖かい色調になります。	低
シャープネス	映像のシャープネスを調整します。 設定値が大きくなると輪郭がくっきりし、小さくなると柔らかくなりノイズを目立ちにくくできます。	30
DDE （ダイナミックディティルエンハンサー）	映像の素材にあわせて、再生する方法を設定します。 ・**フィルム**：通常はこの位置にします。映画ソフトなど 2-3 プルダウン方式の素材を滑らかな動きで再現します。また、2-3 プルダウン方式以外の素材の場合は、自動的に「プログレッシブ」に切り換えて再生します。 ・**プログレッシブ**：インターレースのビデオ信号をプログレッシブに変換して再生します。 ・**切**：インターレースの信号をそのまま変換しないで再生します。	フィルム
黒補正	暗部の階調が引き締まった画質になります。 映像ソースに合わせて設定します。 ・**強**：強い黒補正。 ・**弱**：弱い黒補正。 ・**切**：黒補正なし。	切
ガンマモード	ガンマ補正曲線を選びます。 ・**グラフィックス**：中間調の再現性が高くなります。写真を自然な階調で再現します。 ・**テキスト**：白と黒の対比をはっきりさせます。文字の多い画像に適しています。	グラフィックス

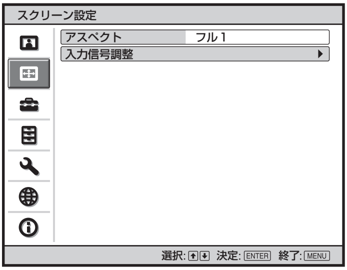
ご注意

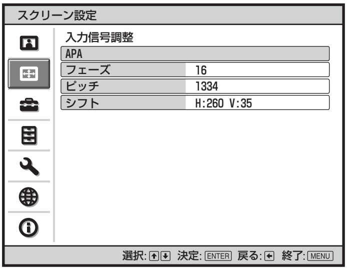
・画質モードを「プレゼンテーション」に設定すると、色温度の項目が表示されません。
・画質モードは、入力信号により一部の設定項目が表示されません。
・ネットワークと USB は画質モードの設定が共通になります。（VPL-DX15 のみ）

スクリーン設定メニュー

入力信号の設定を変更するメニューです。
画面のサイズやワイド切換えなどを調整できます。
入力信号の種類により調整・設定できる項目が限られます。

◆詳しくは、「入力信号と調整／設定項目」（60 ページ）をご覧ください。





設定項目	機能	初期設定値
アスペクト（ビデオ信号入力時）	入力信号に対して、どのような縦横比の映像を投影するかを設定します。ビデオ信号入力時（メモリーナンバー 1 ～ 11）の場合のみ設定可能です。 · **ズーム：**スクイーズ信号で両サイドが黒帯表示の場合に使用します。 · **4：3：**4：3 の映像を入力しているときに選びます。 · **16：9：**スクイーズの映像を入力しているときに選びます。	入力信号による
アスペクト（PC 信号入力時）	入力信号に対して、どのような縦横比の映像を投影するかを設定します。PC 信号入力時のみ（メモリーナンバー 21 ～ 63）設定可能です。 · **フル 1：**オリジナル映像の縦横比を変えずに縦または横いっぱいに映します。 · **ノーマル：**入力画素数を LCD の 1 ピクセルに合わせて表示します。画像は鮮明になりますが、画面に表示される画像は小さくなります。 · **4：3：**アスペクト比を 4:3 にします。 · **16：9：**アスペクト比を 16:9 にします。	入力信号による

設定項目		機能	初期設定値
入力信号調整		入力信号を調整します。	
	APA (オートピクセルアライメント)	ENTER キーを押すと APA を実行します。APA は入力信号にあわせてフェーズ、ピッチ、シフトを自動で調整します。 APA は、コンピューター信号の場合のみ使用できます。 ◆詳しくは、「画質を調整する（スマート APA）」（40 ページ）をご覧ください。	入力信号による
	フェーズ	コンピューター信号入力時、画素とコンピューター信号の位相を調整します。一番くっきり見える数値にします。	
	ピッチ	コンピューター信号入力時、画面の水平方向のサイズを調整します。数値が大きくなるとサイズが大きくなり、小さくなるとサイズが小さくなります。入力信号のドット数と同じ数値に合わせます。	
	シフト	画面の位置を調整します。 · **H（水平）：**数値が大きくなると画面が右に、小さくなると画面が左に移動します。◀/▶ キーを押して設定します。 · **V（垂直）：**数値が大きくなると画面が上に、小さくなると画面が下に移動します。▲/▼ キーを押して設定します。	

ご注意

「アスペクト」は、入力信号により「アスペクト」の項目自体、あるいは一部の設定項目が表示されません。

プリセットメモリーナンバーについて

本機は、あらかじめ46種類（VPL-DX15）／45種類（VPL-DX10/DX11）の映像データをプリセットしています（プリセットメモリー）。プリセットされた信号の入力時は、本機が入力信号を自動的に判別し、プリセットメモリー内のデータを呼び出し、最適な画面に調整します。入力信号のメモリーナンバーと信号種類は情報メニュー画面（60ページ）に表示されます。
プリセットされたデータをスクリーン設定メニューで調整することもできます。
また、プリセットメモリーとは別に、20個のユーザーメモリーがあり、プリセットされていない入力信号に対する設定を登録できます。プリセットされていない信号が初めて入力された場合は、メモリーナンバー0と表示され、スクリーン設定メニューで設定を変更した場合、本機に登録されます。登録数が20個を越えると、古いデータから順番に上書きされます。

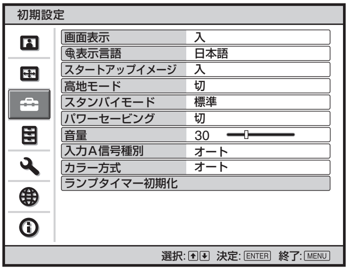
◆詳しくは、「プリセット信号一覧」（76ページ）をご覧ください。

ご注意

- スクリーン設定メニューの「アスペクト」が「ズーム」以外に設定されている場合、画面の一部が黒で表示される場合があります。
- 営利目的、また公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテルなどにおいて、アスペクト機能などを利用して、面積の分割表示や圧縮、引き伸ばしなどを行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますのでご注意ください。

初期設定メニュー

初期設定を変更するメニューです。



設定項目	機能	初期設定値
画面表示	・**入**：メニュー表示などの情報を投影画面に表示します。 ・**切**：メニューの表示、電源を切るときの確認メッセージ、警告メッセージ以外の画面表示が出なくなります。	入
表示言語	メニュー画面の表示言語を選択します。 「English」（英語）、「Nederlands」（オランダ語）、「Français」（フランス語）、「Italiano」（イタリア語）、「Deutsch」（ドイツ語）、「Español」（スペイン語）、「Português」（ポルトガル語）、「Русский」（ロシア語）、「Svenska」（スウェーデン語）、「Norsk」（ノルウェー語）、「日本語」、「中文(简体字)」（中文簡体字）、「中文(繁體字)」（中文繁体字）、「한국어」（韓国語）、「ภาษาไทย」（タイ語）、「عربي」（アラビア語）、「Türkçe」（トルコ語）から選べます。	English
スタートアップイメージ	・**入**：電源を入れた後にスタートアップイメージを画面に表示します。 ・**切**：電源を入れた後にスタートアップイメージを画面に表示しません。	入
高地モード	高地で使用の場合に設定します。 ・**入**：海抜 1500m 以上の高地で使用の場合はこの位置に設定します。 ・**切**：平地での使用の場合はこの位置に設定します。	切

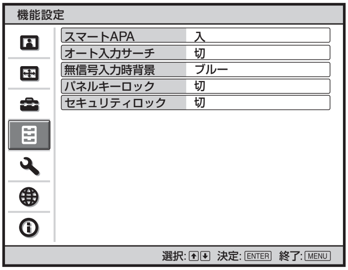
設定項目	機能	初期設定値
スタンバイモード	・**標準：**スタンバイ時の消費電力を少なくします。 ・**低：**スタンバイ時の消費電力をさらに少なくすることができます。	標準
パワーセービング（節電モード）	節電のモードを選びます。 ・**ランプオフ：**本体に信号が入力されない状態が 10 分以上続くとランプが消え、I/⏻ キーがオレンジ色に点灯します。信号が入力されたり、キーを操作したりすると再びランプが点灯します。 ・**スタンバイ：**本体に信号が入力されない状態が 10 分以上続くとスタンバイ状態になり、I/⏻ キーが赤色に点灯します。再び使用する場合は、もう一度電源を入れてください。 ・**切：**節電モードに入りません。	切
音量	音量を調節します。	30
入力 A 信号種別	INPUT A に入力される信号の種類を選択します。INPUT キーで「入力 A」を選んで映す機器からの信号の種類を選びます。 ・**オート：**入力されている信号の種類を自動判別して設定します。 ・**コンピューター：**パソコンからの信号を入力するとき。 ・**ビデオ GBR：**ゲーム機、ハイビジョン放送などの信号を入力するとき。 ・**コンポーネント：**DVD プレーヤー／レコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー（BD）、地上デジタル・BS・110 度 CS（CS1、CS2）・デジタル CS チューナーなどからのコンポーネント信号を入力するとき。	オート
カラー方式	ビデオ入力時のカラー信号方式を選択します。 ・**オート：**NTSC3.58、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-M、PAL-N、PAL60 から自動判別します。 ・**NTSC3.58 ～ PAL-N：**強制的に指定されたカラーシステムに設定します。	オート
ランプタイマー初期化	光源用のランプを交換したときに、ランプタイマーを初期化します。	－

ご注意

・海抜 1500m 未満で高地モードを「入」に設定すると、ランプの信頼性に影響する恐れがあります。
・高地モードを「入」にした場合、ファンの回転数が上がり、音が少し大きくなります。
・スタンバイモードを「低」にした場合、スタンバイ時にネットワークおよびネットワークコントロール機能は使えません。
・入力 A 信号種別を「オート」に設定して、入力されている信号が正しく表示されない場合は、入力信号に合わせて設定してください。
・カラー方式の設定を通常は「オート」にしておくと、自動的に判別しますが、信号の状態が悪く、画が乱れたり色がつかない場合は、入力信号のカラー方式に合わせて選択してください。

機能設定メニュー

本機の機能の設定を変更するメニューです。



設定項目	機能	初期設定値
スマート APA	コンピューター信号入力時に自動的に APA を実行します。 ◆詳しくは、「画質を調整する（スマート APA）」（40 ページ）をご覧ください。 ・**入：**スマート APA を有効にします。 ・**切：**スマート APA を無効にします。	入
オート入力サーチ	INPUT キーを押したとき、入力信号のある入力端子に自動で切り換えます。 ・**入：**INPUT キーが押されたときに、入力 A、ネットワーク（VPL-DX15 のみ）、USB（VPL-DX15 のみ）、ビデオ、S ビデオの順に入力信号の有無を検出し、入力信号のある入力端子を表示します。 ネットワークと USB は常に信号有として表示されます（VPL-DX15 のみ）。 ・**切：**入力信号のない入力端子を選択する場合や、手動で切り換える場合に設定します。	切
無信号入力時背景	信号が入力されていないときの画面の色を選択できます。 ・**ブラック：**画面が黒になります。 ・**ブルー：**画面が青になります。	ブルー

設定項目	機能	初期設定値
パネルキーロック	本体のコントロールパネルキーをすべてロックし、リモートコマンダーのみで操作するように制御できます。 · **入：**パネルキーロックを有効にします。 ◆詳しくは、「セキュリティ機能を活用する」（35 ページ）をご覧ください。 本体側でロックを解除するには、電源が入った状態で MENU キーを約 10 秒押すとロックが解除され、設定が「切」になります。 · **切：**パネルキーロックを無効にします。	切
セキュリティロック	電源を入れるときにパスワードの入力を要求するように設定します。 · **入：**セキュリティロックを有効にします。 ◆詳しくは、「セキュリティ機能を活用する」（35 ページ）をご覧ください。 · **切：**セキュリティロックを無効にします。	切

ご注意

· APA キーは、スクリーンいっぱいに画像が映っているときに押してください。投影している画像の周辺領域に黒の部分が多く含まれていると、正しく APA が働かず、画像の一部が表示されないことがあります。
· 調整中にもう 1 度 APA キーを押すと、調整が取り消され、元の状態に戻ります。
· APA は、信号によっては正しく調整されないことがあります。
· 画質を手動で調整するときは、スクリーン設定メニューの「フェーズ」、「ピッチ」、「シフト」の調整をしてください。

設置設定メニュー

本機の機能の設定を変更するメニューです。



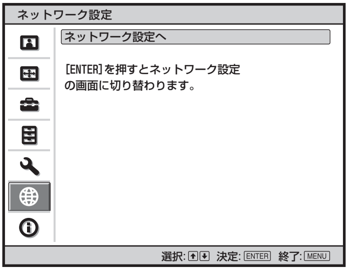
設定項目	機能	初期設定値
V キーストーン	オート V キーストーン補正を設定します。 ・**オート**：オート V キーストーン補正を有効にします。 ・**手動**：オート V キーストーン補正を無効にします。 ◆詳しくは、「台形になった画像を自動で補正する（オート V キーストーン補正）」（33 ページ）をご覧ください。	オート
画像反転	画像を水平または垂直方向に反転します。 スクリーンの裏面から投射するときなどに使用します。 ・**上下左右**：画像を水平、垂直方向に反転します。 ・**左右**：画像を水平方向に反転します。 ・**上下**：画像を垂直方向に反転します。 ・**切**：画像は反転しません。	切
ランプモード	投影時のランプの明るさを設定します。 ・**高**：標準より明るく投影します。使用する場所が明るく、画面が見にくいときにご使用ください。 ・**標準**：通常の明るさで投影します。	標準
ダイレクトパワーオン	ブレーカーなどでシステム全体の電源の入切などを行う場合は、ダイレクトパワーオン機能を「入」にしてご使用ください。 スタンバイ状態を経ずに電源のオン／オフができます。	切

ご注意

・V キーストーン補正は電子的な補正のため、画像が劣化する場合があります。
・ランプモードを「高」に設定して使用する場合は、ランプなどをより冷やす必要があるためファンの音が大きくなります。

ネットワーク設定メニュー（VPL-DX15 のみ）

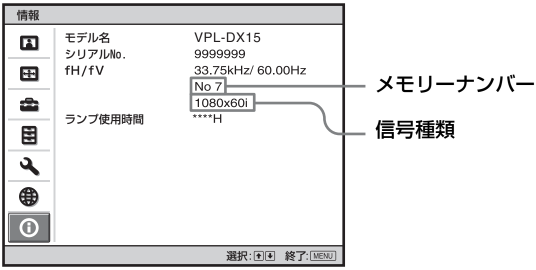
本機のネットワーク機能を設定するメニューです。



設定項目	機能
ネットワーク設定	ネットワークの設定画面が表示されます。詳しくは CD-ROM に収録されている「取扱説明書（ネットワーク／ USB ファイルビューアー編）」をご覧ください。

情報メニュー

プロジェクターのモデル名、シリアル番号、投影時の画像の水平、垂直周波数やランプ使用時間などの情報を見ることができます。



設定項目	機能
モデル名	機種を表示する。
シリアル No.	シリアル番号を表示する。
fH（水平周波数）	水平周波数を表示する。
fV（垂直周波数）	垂直周波数を表示する。
メモリーナンバー	入力信号のプリセットメモリーナンバーを表示する。
信号種類	入力信号の解像度を表示する。
ランプ使用時間	ランプの使用時間を累積して表示する。

ご注意

- fH（水平周波数）と fV（垂直周波数）は、お使いの入力信号によっては表示されないことがあります。
- 上記の項目は変更できません。

入力信号と調整／設定項目

メニューによっては、入力信号の種類によって調整・設定できる項目が限られます。詳しくは、次の表をご覧ください。
調整･設定できない項目はメニューに表示されません。

画質設定メニュー

項目	入力信号					
	ビデオ／S ビデオ	コンポーネント	ビデオ GBR	コンピューター	*5 ネットワーク	*5USB
画質モード	○	○	○	○	○	○
コントラスト	○	○	○	○	○	○
明るさ	○	○	○	○	○	○
色の濃さ	○ *1	○	○	×	×	×
色合い	○ *2	○	○	×	×	×
色温度	○	○	○	○ *3	○ *3	○ *3
シャープネス	○	○	○	×	×	×
DDE	○	○	○	×	×	×
黒補正	○	○	○	×	×	×
ガンマモード	×	×	○ *4	○	○	○

○：調整･設定できる項目　×：調整･設定できない項目

*1：白黒を除く

*2：NTSC3.58、NTSC4.43 のみ、白黒を除く

*3：「画質モード」が「ダイナミック」または「スタンダード」設定時のみ

*4：プリセットメモリーナンバー 3、4 のみ

*5：VPL-DX15 のみ。また、ネットワークと USB は画質モードの設定が共通になります。

スクリーン設定メニュー

項目	入力信号					
	ビデオ／S ビデオ	コンポーネント	ビデオ GBR	コンピューター	*6 ネットワーク	*6USB
アスペクト	○	○	○	○	×	×
入力信号調整						
APA	×	×	×	○	×	×
フェーズ	×	×	×	○	×	×
ピッチ	×	×	×	○	×	×
シフト	×	○	○	○	×	×

○：調整･設定できる項目　×：調整･設定できない項目

*6：VPL-DX15 のみ

ランプを交換する

光源として使用されているランプは消耗品ですので、次のような場合は新しいランプと交換してください。
・光源のランプが切れたとき
・光源のランプが暗くなったとき
・「ランプを交換してください。」というメッセージが表示されたとき
・LAMP/COVER インジケーターが点滅（3回点滅パターンのくり返し）したとき（ただし、他の原因も考えられますので69ページを参照してください。）

ランプ交換時期はその使用条件によって変わってきます。
交換ランプは、別売りのプロジェクターランプLMP-D200をお使いください。
それ以外のものをお使いになると故障の原因になります。

⚠警告

I/⏻ キーで電源を切った直後はランプが高温になっており、**さわるとやけどの原因**となることがあります。ランプを充分に冷やすため、**ランプ交換は、本機の電源を切ってから1時間以上**たってから行ってください。

⚠注意

・ランプが破損している場合は、ソニーの相談窓口にご相談ください。
・ランプを取り出すときは、必ず取り出し用のハンドルを持って引き出してください。他の部分を持って引き出すと、けがややけどの原因となることがあります。
・ランプを取り出すときは、ランプを水平に持ち上げ、傾けないでください。ランプを傾けて持つと、万一ランプが破損した場合に、ランプの破片が飛び出し、けがの原因となることがあります。

1 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く。

ご注意

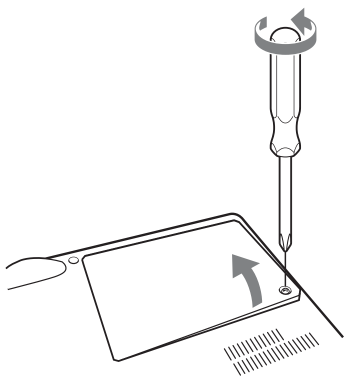
本機を使用した後にランプを交換する場合は、ランプを冷やすため、1時間以上たってからランプを交換してください。

2 本機や机に傷がつかないよう布などを敷き、その上で本機を裏返す。

ご注意

プロジェクターを、しっかりと安定させてください。

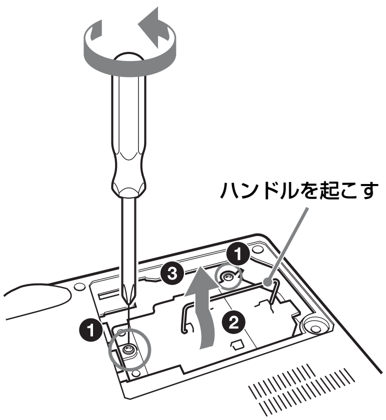
3 ランプカバーのネジ（1本）をプラスドライバーでゆるめ、ランプカバーを開く。



ご注意

安全のため、他のネジは絶対にはずさないでください。

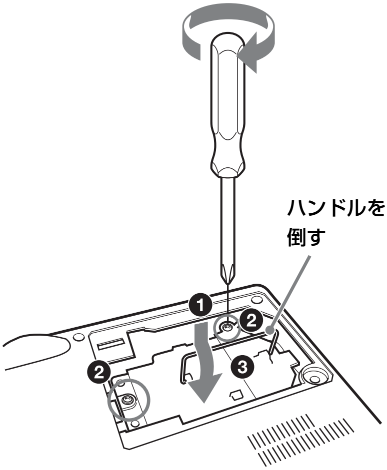
4 ランプのネジ(2本)をプラスドライバーでゆるめ（❶）、取り出し用ハンドルを起こし（❷）ハンドルを持ってランプを引き出す（❸）。



⚠警告

ランプをはずした後のランプの収納部に金属類や燃えやすい物などの異物を入れないでください。**火災や感電の原因**となります。また、**やけどの危険**がありますので手を入れないでください。

5 新しいランプを確実に奥まで押し込み（❶）、ネジ（2本）を締め（❷）、取り出し用ハンドルを倒して元に戻す（❸）。



ご注意

・ランプのガラス面および導線部には触れないようご注意ください。
・ハンドルはしっかりと押し込み、確実に固定させてください。
・ランプが確実に装着されていないと、電源が入りません。

6 ランプカバーを閉め、ネジ（1本）を締める。

ご注意

ランプカバーはしっかり取り付けてください。きちんと取り付けられていないと、電源が入りません。

7 本機の向きを元にもどす。

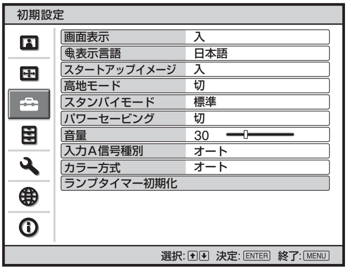
8 電源コードを接続する。

I/⏻ キーが赤色に点灯します。

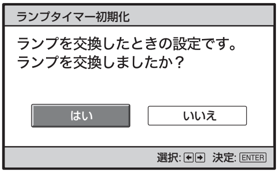
9 I/⏻ キーを押して電源を入れる。

10 MENU キーを押して初期設定メニューを選ぶ。

11「ランプタイマー初期化」を選び、ENTER キーを押す。



「ランプを交換したときの設定です。ランプを交換しましたか？」というメッセージが表示されます。



12◀ キーで「はい」を選び、ENTER キーを押す。

ランプタイマーが 0 に初期化され、「ランプタイマー初期化が完了しました」というメッセージが表示されます。

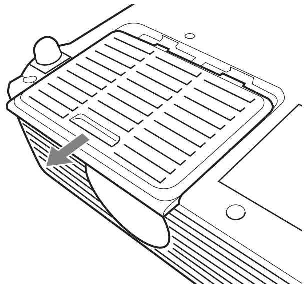
エアーフィルターをクリーニングする

約 500 時間の使用ごとにエアーフィルターのクリーニングが必要です。エアーフィルターカバーを取りはずし、中性洗剤で掃除してください。
また、クリーニング時期は目安です。使用環境や使いかたによって異なります。

1 電源を切り、電源コードを抜く。

2 本機や机に傷がつかないように布などを敷き、その上で本機を裏返す。

3 エアーフィルターカバーをはずす。



4 **内側のフィルターをはずし、中性洗剤でフィルターの汚れを拭きとる。**

5 **フィルターをエアフィルターカバーに戻す。**

6 **エアーフィルターカバーをもとの位置に差し込んで取り付ける。**

ご注意

- エアーフィルターを掃除しても汚れが落ちないときは、新しいエアーフィルターに交換してください。新しいエアーフィルターについては、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご依頼ください。
- エアーフィルターカバーはしっかり取り付けてください。きちんと取り付けられていないと、故障の原因となります。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう 1 度次の点検をしてください。以下の対処を行っても直らない場合は、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にお問い合わせください。

電源に関する項目

症状	原因と対処
電源が入らない。	・電源ケーブルがはずれている。 ➔電源ケーブルをしっかりと接続してください。 ・ランプまたはランプカバーがはずれている。 ➔ランプまたはランプカバーをしっかりとはめてください。（63 ページ）

映像に関する項目

症状	原因と対処
映像が映らない。	・電源が入っていない。 ➔電源を入れてください。（26 ページ） ・ケーブルがはずれている。または正しく接続されていない。 ➔接続を確認してください。（23 ページ） ・レンズシャッターが閉じている ➔レンズシャッターを開けてください。（17、39 ページ） ・入力切り換えが正しくない。 ➔投影する映像を正しく選んでください。（27 ページ） ・映像が消画（ミューティング）されている。 ➔PIC MUTING キーを押して、ミューティングを解除してください。（39 ページ） ・お使いのコンピューターの出力信号が外部モニターに出力されるように設定されていない。あるいは外部モニターとコンピューターの液晶ディスプレイの両方に出力するように設定されている。 ➔出力信号をコンピューターの外部モニターのみに出力するように設定してください。（24 ページ）
画面にノイズが出る。	・接続ケーブルが正しく接続されていない。 ➔接続ケーブルがしっかり接続されているか確認してください。
画面表示が出ない。	初期設定メニューの「画面表示」が「切」に設定されている。 ➔「画面表示」の設定を「入」にしてください。（52 ページ）

症状	原因と対処
色がおかしい。	・画質の設定がおかしい。 ➔画質設定メニューで画質の調整をしてください。 ➔お買い上げ時の設定に戻すことができます。(31 ページ) ・初期設定メニューの「入力 A 信号種別」の設定が入力信号と合っていない。 ➔入力信号に合わせて初期設定メニューの「入力 A 信号種別」で「コンピューター」、「ビデオ GBR」、「コンポーネント」信号の設定を正しく合わせてください。(53 ページ) ・入力信号のカラー方式が合っていない。 ➔入力信号に合わせて初期設定メニューの「カラー方式」で正しく設定してください。(53 ページ)
画面が暗い。	・コントラスト、明るさの設定が正しくない。 ➔画質設定メニューで正しく設定してください。(47 ページ) ➔お買い上げ時の設定に戻すことができます。(31 ページ) ・ランプが消耗している。 ➔情報メニューの「ランプ使用時間」を確認してください。(60 ページ)
画面がぼやける。	・フォーカスが合っていない。 ➔フォーカスを合わせてください。(27 ページ) ・結露が生じた。 ➔電源を入れたまま約 2 時間そのままにしておいてください。
画像がスクリーンからはみでている。	・画像のまわりに黒い部分が残っている状態で APA キーを押した。 ➔スクリーンいっぱいに画像を映してからAPAキーを押してください。 ・スクリーンの設定がおかしい。 ➔スクリーン設定メニューの「シフト」を調整してください。 ➔お買い上げ時の設定に戻すことができます。(31 ページ)
画面がちらつく。	・スクリーンの設定がおかしい。 ➔スクリーン設定メニューの「フェーズ」を調整してください。 ➔お買い上げ時の設定に戻すことができます。(31 ページ)
画面のアスペクトが合っていない。	・スクリーンの設定がおかしい。 ➔スクリーン設定メニューの「アスペクト」を調整してください。 ➔お買い上げ時の設定に戻すことができます。(31 ページ)

音声に関する項目

症状	原因と対処
音が出ない。	・ケーブルがはずれている。または正しく接続されていない。 ➔接続を確認してください。(23 ページ) ・正しいケーブルで接続されていない。 ➔抵抗なしのステレオオーディオ接続ケーブルをお使いください。(23 ページ) ・音声が消音(ミューティング)されている。 ➔AUDIO MUTING キーを押して、ミューティングを解除してください。(40 ページ) ・音量が正しく調整されてない。 ➔リモートコマンダーのVOLUME + / − キーで正しく調整してください。

リモートコマンダーに関する項目

症状	原因と対処
リモートコマンダーが機能しない。	・電池の交換時期がきた。 ➔新しい電池と交換してください。(22 ページ) ・リモートコマンダーを操作するとき、本体の受光部に向けていない。 ➔本体の受光部に向けてキーを押してください。(22 ページ) ・無効なキーを押している。 ➔本機では使用しないキーを押していないか確認してください。(20 ページ)

その他に関する項目

症状	原因と対処
本体のコントロールパネルキーが操作できない。	コントロールパネルキーがロックされている。 ➔パネルキーロックを解除してください。（37、56 ページ）
ファンの音が気になる。	・ランプモードを「高」で使用している。 ➔ランプモードを「高」で使用する場合、ランプなどをより冷却する必要があるため、ファンの音が大きくなります。 ・高地モードを「入」で使用している。 ➔高地モードを「入」で使用する場合、ランプをより冷却する必要があるため、ファンの音が大きくなります。 ➔吸気口、排気口がふさがれていないか確認する。 ➔室温が高くないか確認する。 部品の信頼性のため、常温より室温が高くなるとファンの回転数が上がり、ファンの音が大きくなります。常温の目安は 25 ℃です。

インジケーターに関する項目

症状	原因と対処
LAMP/COVER インジケーターがオレンジ色点滅する。（2 回点滅パターンのくり返し）	・ランプカバーがはずれている。 ➔カバーをしっかりとはめてください。（62 ページ）
LAMP/COVER インジケーターがオレンジ色点滅する。（3 回点滅パターンのくり返し）	・セット内部が高温になり、温度センサーが働いた。 ➔排気口、吸気口がふさがれていないか確認してください。 ・ランプが高温になっている。 ➔90 秒以上たってランプが冷えてからもう 1 度電源を入れてください。 上記を試しても症状が再発する場合は、次のことが考えられます。 ・ランプの交換時期が来たためランプを交換する（62 ページ）必要がある。 ・セット内部が高温になり温度ヒューズが切れている。 ➔お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

症状	原因と対処
I/⏻ キーが赤色点滅する。（2 回点滅パターンのくり返し）	・内部が高温になっている。 ➔排気口、吸気口がふさがれていないか確認してください。 ・標高が高い場所で使用されている。 ➔高地モードが「入」に設定されているか確認してください。（52 ページ）
I/⏻ キーが赤色点滅する。（4 回点滅パターンのくり返し）	ファンが故障している。 ➔お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。
I/⏻ キーが赤色点滅する。（6 回点滅パターンのくり返し）	電源コードを抜いて、I/⏻ キーが消えるのを確認してから、電源コードをコンセントに差し込み、もう一度電源を入れる。症状が再発する場合は、電気系統が故障しているか、セット内部が高温になり、温度ヒューズが切れている。 ➔お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

メッセージ一覧

警告メッセージ

以下のメッセージが画面に出ます。メッセージの意味を以下の表で確認してください。

メッセージ	意味と対処
セット内部温度が高いです。1 分後にランプオフします。	内部の温度が高くなった。 ➔電源を切ってください。 ➔排気口、吸気口をふさいでいないかどうか確認してください。
入力信号の周波数が対応範囲をこえています！	・対応範囲を越えた周波数の信号が入力された。 ・接続するコンピューターの外部モニターの出力信号の設定が高い。 ➔対応範囲内の信号を入力してください。
入力 A 信号種別の設定を確認してください。	初期設定メニューの「入力 A 信号種別」が「コンポーネント」に設定されているのに、コンピューターから RGB 信号を入力した。 ➔「入力 A 信号種別」を正しく設定してください。（53 ページ）
ランプを交換してください。	・ランプ交換の時期が来た。 ➔ランプを交換してください。（62 ページ） ・ランプ交換後も表示される場合は作業が完了されていない。 ➔63 ページの手順 9 ～ 12 を行ってください。 **ご注意** メッセージを消す場合は、リモートコマンダーキー、または、コントロールパネルキーのいずれかのキーを押してください。
フィルターを掃除してください。	フィルターを掃除する時期がきた。 ➔フィルターを掃除してください。（64 ページ） **ご注意** メッセージを消すには、リモートコマンダーまたは本体コントロールパネルのいずれかのキーを押してください。メッセージは次回起動時を含めて 2 回表示されます。
本機内部の温度が高くなっていますので、高地モードを入に切り替えます。高地でご使用の際は高地モードを入でお使いください。	内部の温度が高くなった。 ➔海抜 1500m 以上でご使用の場合は、高地モードを入に設定する。（52 ページ） ➔海抜1500m 以下でご使用の際にこのメッセージが表示された場合は、排気口がふさがれていないか確認する。（11 ページ）

注意メッセージ

以下のメッセージが画面に出ます。メッセージの意味を以下の表で確認してください。

メッセージ	意味と対処
無効キーが押されました。	操作が正しくない。 ➔ 正しいキーを押してください。
パネルキーロック中です！	機能設定メニューの「パネルキーロック」が「入」に設定されている。 ➔ コントロールパネルのキーは全てロックされています。 リモートコマンダーで操作してください。（56 ページ）

保証書とアフターサービス

保証書

・この製品には保証書が添付されていますので、 お買い上げの際お受け取りください。
・所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、 大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを → この説明書をもう 1 度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは → お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は → 保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
ただし、本機には消耗部品が含まれております。保証期間中でも長時間使用による消耗部品の交換は、有料になる場合があります。

保証期間経過後の修理は → 修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

仕様

光学系

投影方式	3LCD パネル、1 レンズ、3 原色光シャッター方式
LCD パネル	0.63 インチ XGA パネル、約 236 万画素（786,432 × 3）
レンズ	1.2 倍ズームレンズ f 18.63 〜 22.36 mm F1.65 〜 1.8
ランプ	200 W 高圧水銀ランプ
投影画面サイズ	40 インチ〜 300 インチ
光出力	VPL-DX10：2500 lm[1)] VPL-DX11/DX15：3000 lm （ランプモード 高のとき）

1) 出荷時における本製品全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911: 2003 データプロジェクターの仕様書様式に則って記載しています。
測定方法、測定条件については附属書 2 に基づいています。

電気系

カラー方式	NTSC3.58、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-M、PAL-N、PAL60 自動切り換え／手動切り換え （NTSC4.43 とは、NTSC 方式で録画されたビデオカセットを、NTSC4.43 方式のビデオデッキで再生したときのカラー方式です。）
解像度	水平解像度 750TV 本（ビデオ入力時）1,024 × 768 ドット（RGB 入力時）

その他

対応コンピューター信号[2)]
fH: 19 ～ 80 kHz、fV: 48 ～ 92 Hz
（最高入力解像度信号：
SXGA+　1400 × 1050
fV: 60Hz）

2) 接続するコンピューターの信号の解像度と周波数は、プリセット信号の範囲内に設定してください。

対応ビデオ信号
15 k RGB、コンポーネント 50/60Hz、プログレッシブコンポーネント 50/60Hz、DTV（480/60i, 575/50i, 480/60p, 575/50p, 720/60p, 720/50p, 1080/60i, 1080/50i）、コンポジットビデオ、Y/C

入出力

INPUT A（入力 A）
HD D-sub 15 ピン、凹
アナログ RGB/ コンポーネント：
R/R-Y：0.7 Vp-p ± 2 dB（75Ω 終端）
G：0.7 Vp-p ± 2 dB（75Ω 終端）
同期付 G/Y：1 Vp-p ± 2 dB 同期負（75Ω 終端）
B/B-Y：0.7 Vp-p ± 2 dB（75Ω 終端）
複合同期入力：TTL レベル、正負極性
水平同期入力：TTL レベル、正負極性
垂直同期入力：TTL レベル、正負極性

VIDEO（ビデオ入力）
コンポジットビデオ：1 Vp-p ± 2 dB 同期負（75Ω 終端）、ピンジャック
S VIDEO：Y/C、ミニ DIN4 ピン
Y（輝度）信号：1 Vp-p ± 2 dB 同期負（75Ω 終端）
C（クロマ）信号：
バースト 0.286 Vp-p ± 2 dB（NTSC）（75Ω 終端）
バースト 0.3 Vp-p ± 2 dB（PAL）（75Ω 終端）

AUDIO（オーディオ入力）
ミニジャック、定格入力 500mVrms、入力インピーダンス 47kΩ

スピーカー（モノラルスピーカーシステム）
スピーカー出力 最大 1 W × 1

ネットワーク（VPL-DX15 のみ）
無線 LAN：IEEE.802.11.a/b/g[3)]
RJ45：10BASE-T/100 BASE-TX

3) 一部の国と地域で使用できない無線ネットワークがあります。

USB（VPL-DX15 のみ）
USB　TYPE A

一般

外形寸法　約 295 × 74 × 204 mm（幅／高さ／奥行き）（突起部含まず）
質量　VPL-DX10/DX11：約 2 .1 kg
VPL-DX15：約 2 .2 kg
電源　AC 100 V、3.6 A、50/60 Hz
消費電力　VPL-DX15：最大 320 W
スタンバイ時（標準）：10.5 W

スタンバイ時（低）：3 W
VPL-DX10/DX11：
最大 320 W
スタンバイ時（標準）：
5.5 W
スタンバイ時（低）：3 W

発熱量　990 BTU

動作温度　0 ℃ ～ ＋ 35 ℃

動作湿度　35 % ～ 85 %（結露しないこと）

保存温度　－ 20 ℃ ～ ＋ 60 ℃

保存湿度　10 % ～ 90 %

付属品　リモートコマンダー（1）
リチウム電池 CR2025（1）
HD D-sub 15 ピンケーブル（2 m）（1）（1-791-992-51 ／ Sony）
キャリングケース（1）
電源コード（1）
取扱説明書（CD-ROM）（1）
簡易説明書（1）
安全のために（1）
保証書（1）
セキュリティラベル（1）
ワイヤレスラベル（1）（VPL-DX15 のみ）

本機（別売アクセサリーを含む）の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ご注意

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

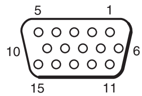
別売アクセサリー

プロジェクターランプ LMP-D200（交換用）
プレゼンテーションツール RM-PJPK1

別売アクセサリーの中には、国・地域によって販売されていないものがあります。ソニーの相談窓口に確認してください。

ピン配列

INPUT A（入力 A）端子（HD D-sub 15 ピン、凹）



1	映像入力（赤）R/R-Y	9	DDC 用電源入力
2	映像入力（緑）G/Y	10	接地
3	映像入力（青）B/B-Y	11	接地
4	接地	12	DDC/SDA
5	RESERVE	13	水平同期信号／複合同期信号
6	接地（赤用）	14	垂直同期信号
7	接地（緑用）	15	DDC/SCL
8	接地（青用）		

プリセット信号一覧

メモリーナンバー	プリセット信号		fH (kHz)	fV (Hz)	同期	ピッチ
1	ビデオ /60 Hz	ビデオ 60 Hz	15.734	59.940	–	–
2	ビデオ /50 Hz	ビデオ 50 Hz	15.625	50.000	–	–
3	480/60i	DTV 480/60i	15.734	59.940	S on G/Y	–
4	575/50i	DTV 575/50i	15.625	50.000	S on G/Y	–
5	480/60p	480/60p（倍速NTSC）	31.470	60.000	S on G/Y	–
6	575/50p	575/50p（倍速PAL）	31.250	50.000	S on G/Y	–
7	1080/60i	1035/60i, 1080/60i	33.750	60.000	S on G/Y	–
8	1080/50i	1080/50i	28.130	50.000	S on G/Y	–
10	720/60p	720/60p	45.000	60.000	S on G/Y	–
11	720/50p	720/50p	37.500	50.000	S on G/Y	–
21	640 × 350	VGA モード 1	31.469	70.086	H- 正 V- 負	800
22		VESA 85 (VGA350)	37.861	85.080	H- 正 V- 負	832
23	640 × 400	NEC PC98	24.823	56.416	H- 負 V- 負	848
24		VGA モード 2	31.469	70.086	H- 負 V- 正	800
25		VESA 85 (VGA400)	37.861	85.080	H- 負 V- 正	832
26	640 × 480	VGA モード 3	31.469	59.940	H- 負 V- 負	800
27		Mac 13	35.000	66.667	H- 負 V- 負	864
28		VESA 72	37.861	72.809	H- 負 V- 負	832
29		VESA 75 (IBM M3)	37.500	75.000	H- 負 V- 負	840
30		VESA 85	43.269	85.008	H- 負 V- 負	832
31	800 × 600	VESA 56	35.156	56.250	H- 正 V- 正	1024
32		VESA 60	37.879	60.317	H- 正 V- 正	1056
33		VESA 72	48.077	72.188	H- 正 V- 正	1040
34		VESA 75 (IBM M5)	46.875	75.000	H- 正 V- 正	1056
35		VESA 85	53.674	85.061	H- 正 V- 正	1048
36	832 × 624	Mac 16	49.724	74.550	H- 負 V- 負	1152
37	1024 × 768	VESA 60	48.363	60.004	H- 負 V- 負	1344
38		VESA 70	56.476	70.069	H- 負 V- 負	1328
39		VESA 75	60.023	75.029	H- 正 V- 正	1312
40		VESA 85	68.677	84.997	H- 正 V- 正	1376
41	1152 × 864	VESA 70	63.995	70.019	H- 正 V- 正	1472
42		VESA 75	67.500	75.000	H- 正 V- 正	1600
43		VESA 85	77.487	85.057	H- 正 V- 正	1568

メモリーナンバー	プリセット信号		fH (kHz)	fV (Hz)	同期	ピッチ
44	1152 × 900	SUN LO	61.795	65.960	H- 負 V- 負	1504
45	1280 × 960	VESA 60	60.000	60.000	H- 正 V- 正	1800
46		VESA 75	75.000	75.000	H- 正 V- 正	1728
47	1280 × 1024	VESA 60	63.974	60.013	H- 正 V- 正	1688
48		SXGA VESA75	79.976	75.025	H- 正 V- 正	1688
50	1400 × 1050	SXGA+	65.317	59.978	H- 負 V- 正	1864
55	1280 × 768	1280 × 768/60	47.776	59.870	H- 負 V- 正	1664
56	1280 × 720	1280 × 720/60	44.772	59.855	H- 負 V- 正	1664
60	1360 × 768	1360 × 768/60	47.720	59.799	H- 負 V- 正	1776
61	1440 × 900	1440 × 900/60	55.935	59.887	H- 負 V- 正	1904
63	1280 × 800	1280 × 800/60	49.702	59.810	H- 負 V- 正	1680

入力ごとの対応プリセットメモリーナンバーについて

アナログ信号

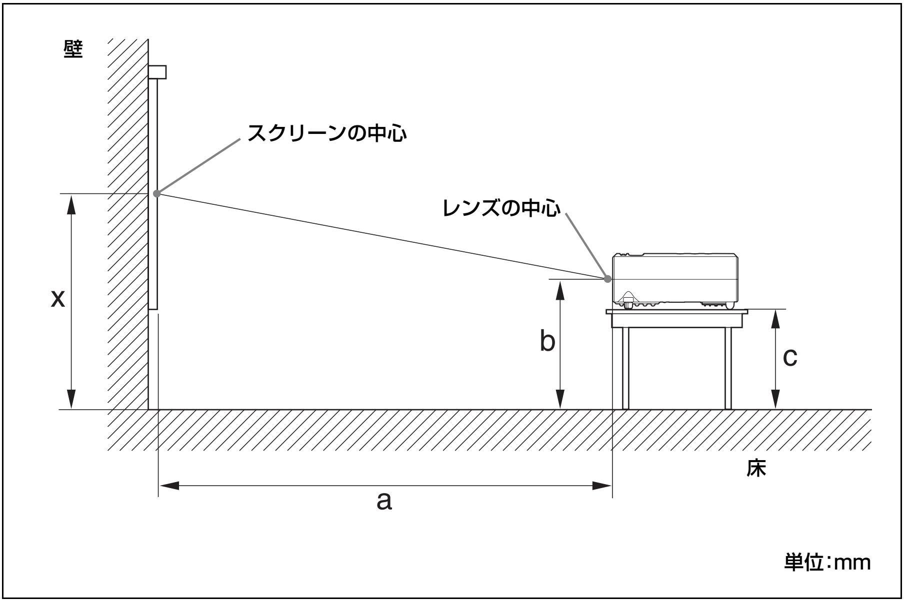
信号	プリセットメモリーナンバー
ビデオ信号（VIDEO/S VIDEO 端子）	1、2
コンポーネント信号（INPUT A 端子）	3 ～ 8、10、11
ビデオ GBR 信号（INPUT A 端子）	3 ～ 8、10、11
コンピューター信号（INPUT A 端子）	21 ～ 48、50、55、56、60、61、63

ご注意

・上記記載のプリセット信号以外の信号を入力した場合、画像を正しく表示できないことがあります。
・パネル解像度と異なる入力信号では、入力信号そのままの解像度での表示はされず、文字や罫線の太さなどが不均一となる場合があります。
・fV(垂直周波数) が 60Hz を超える信号で動画再生を行う場合、スムーズに再生されない場合があります。

設置と設置寸法

床置き、フロントト投影



本機を机などの上に置いて設置する場合の設置例を示します。

設置寸法については、次ページの表をご覧ください。

イラスト中のアルファベットは、以下の距離を示します。

a：キャビネット最前面からスクリーンまでの距離

b：床からレンズの中心までの距離

c：床から本機の脚までの距離

x：床からスクリーン中心までの距離（任意）

単位：mm											
PS		40	60	80	100	120	150	180	200	250	300
a	N	1160	1758	2356	2954	3551	4448	5345	5943	7437	8932
	M	1347	2037	2728	3418	4109	5144	6180	6870	8596	10322
b		x-203	x-305	x-406	x-508	x-610	x-762	x-914	x-1016	x-1270	x-1524
c		x-252	x-354	x-455	x-557	x-658	x-811	x-963	x-1065	x-1319	x-1573

a(N)＝((PS × 18.46/0.6299) − 34.7) × 1.02

a(M)＝((PS × 22.19/0.6299) − 34.6) × 0.98

b ＝ x −（PS/0.6299 × 3.2）

c ＝ x −（PS/0.6299 × 3.2 ＋ 48.7）

表および計算式のアルファベットは以下の意味を示します。

PS：投影画面サイズ（対角）（インチ）

a：キャビネット最前面からスクリーンまでの距離

b：床からレンズの中心までの距離

c：床から本機の脚までの距離

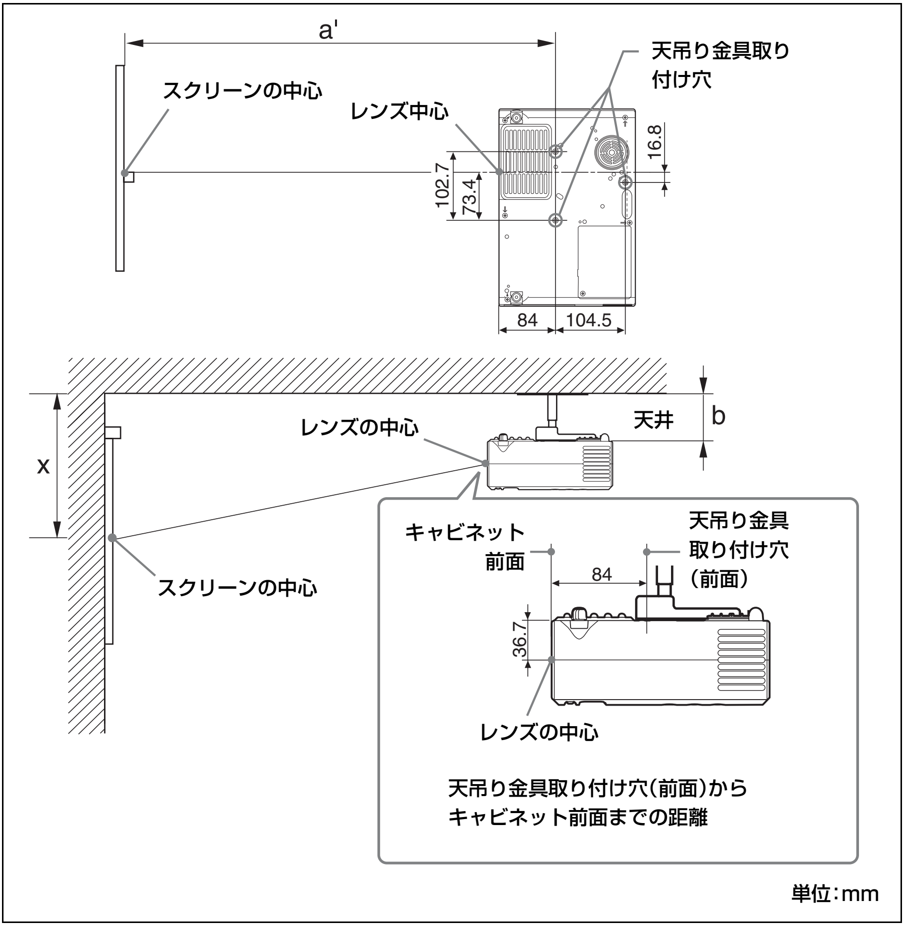
x：任意

N：最小値

M：最大値

その他

天吊り、フロント投影



本機を天井からつり下げて設置する場合の設置例を示します。
天吊りの場合は、ソニー推奨のプロジェクターサスペンションサポートをご使用ください。設置について詳しくは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。
設置寸法については、次ページの表をご覧ください。

イラスト中のアルファベットは、以下の距離を示します。

a'：本機底面の天吊り金具取り付け穴（前面）からスクリーンまでの距離
b：天井から天吊り金具取り付け面までの距離
x：天井からスクリーン中心までの距離

単位：mm										
PS		40	60	80	100	120	150	180	200	250	300
a'	N	1244	1842	2440	3038	3635	4532	5429	6027	7521	9016
	M	1431	2121	2812	3502	4193	5228	6264	6954	8680	10406
x		b+240	b+342	b+443	b+545	b+646	b+799	b+951	b+1053	b+1307	b+1561
b		任意									

a'(N) = ((PS × 18.46/0.6299) − 34.7) × 1.02 + 84

a'(M) = ((PS × 22.19/0.6299) − 34.6) × 0.98 + 84

x = PS/0.6299 × 3.2 + 36.7

表および計算式のアルファベットは以下の意味を示します。

PS：投影画面サイズ（対角）（インチ）

a'：本機底面の天吊り金具取り付け穴（前面）からスクリーンまでの距離

b：天井から天吊り金具取り付け面までの距離

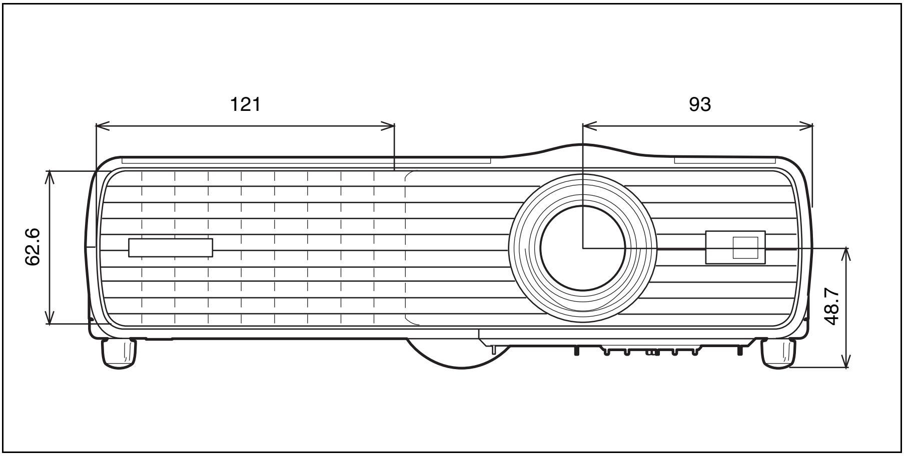
x：天井からスクリーン中心までの距離

N：最小値

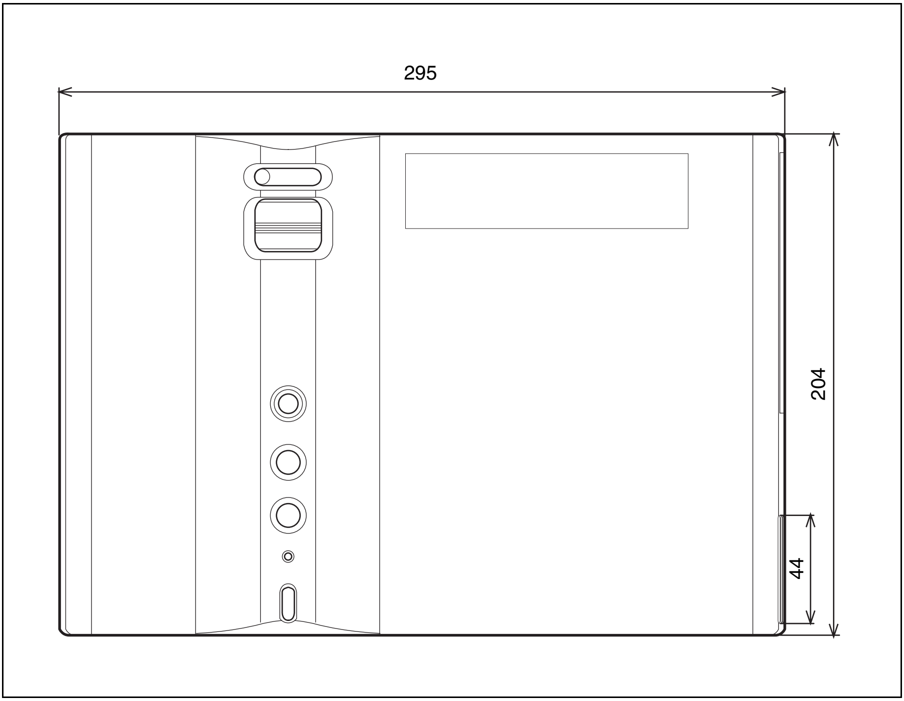
M：最大値

寸法図

前面

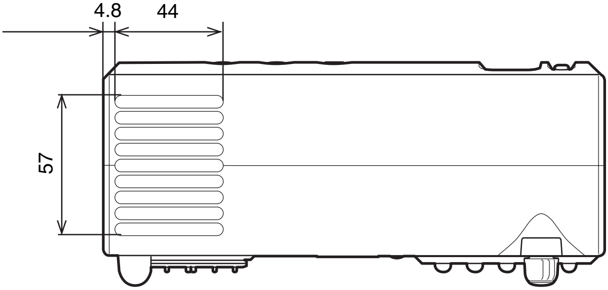


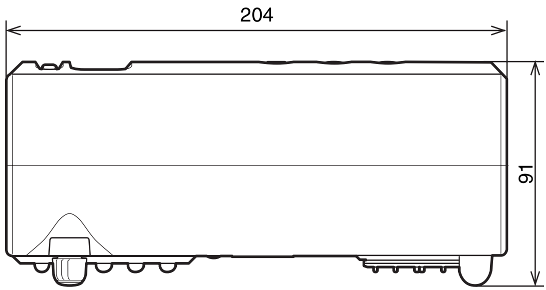
天面



単位：mm

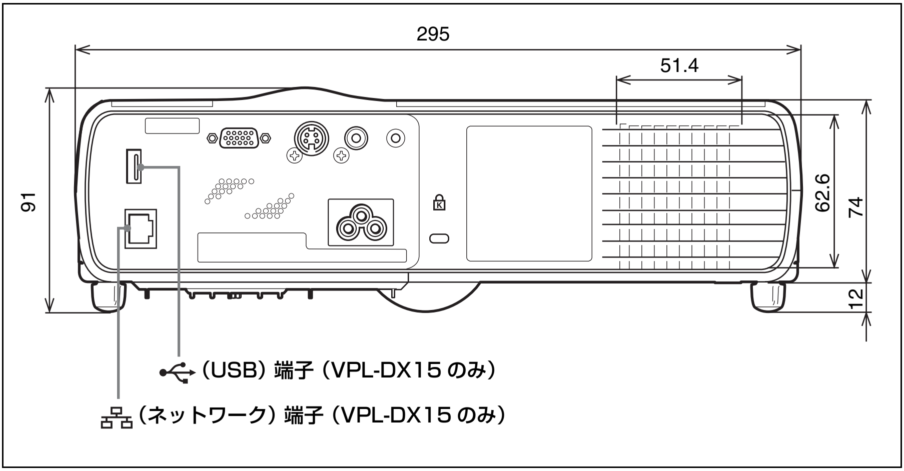
側面





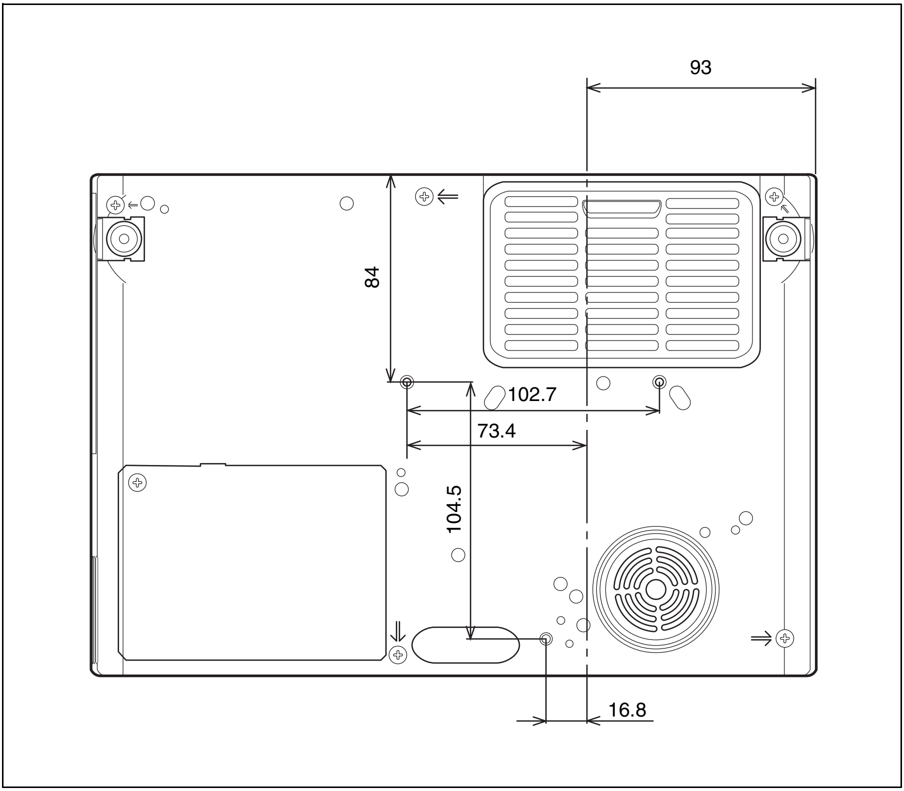
単位：mm

後面



295
51.4
91
62.6
74
12
(USB) 端子 (VPL-DX15 のみ)
(ネットワーク) 端子 (VPL-DX15 のみ)

底面



93
84
102.7
73.4
104.5
16.8

単位:mm

索引

五十音順

あ

か

さ

た

な

は

商標について

- Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Kensington は Kensington 社の登録商標です。
- Macintosh は Apple Inc. 社の登録商標です。
- VESA は Video Electronics Standards Association の登録商標です。
- Display Data Channel は Video Electronics Standards Association の商標です。
- その他のシステム名、製品名は、一般的に各開発メーカーの商標あるいは登録商標です。なお、本文中では ™、® マークは明記していません。

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。	**http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「203」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389 **受付時間** 月〜金：9:00〜20:00 土・日・祝日：9:00〜17:00

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/